

# 高松市内遺跡発掘調査概報

— 令和5年度国庫補助事業 —

2024年3月

高松市教育委員会

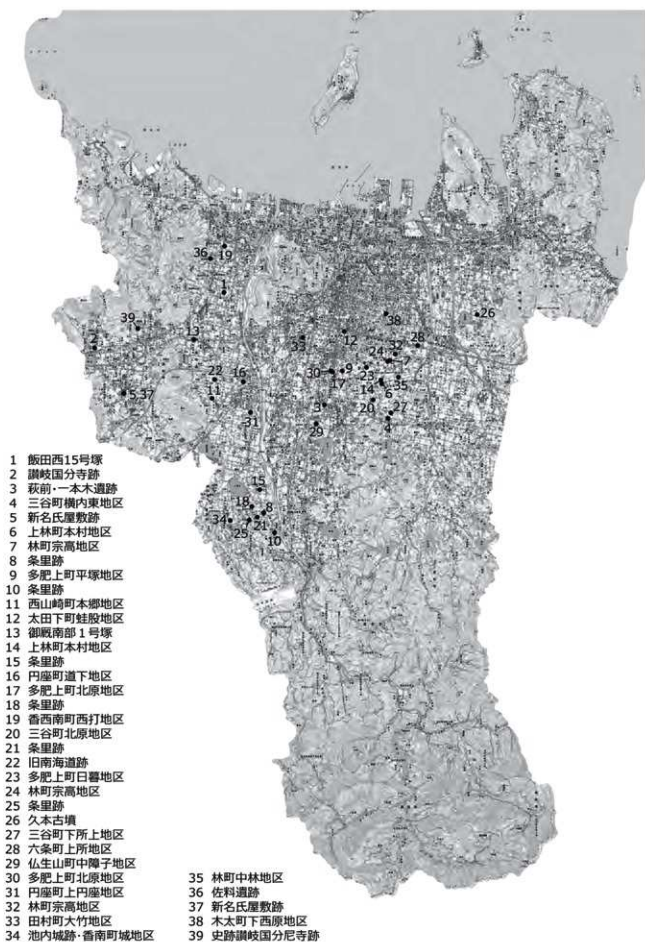


## 例言

- 1 本書は、高松市教育委員会が令和5年度（一部、令和4年度も含む）に国庫補助事業として実施した高松市内遺跡発掘調査事業の概要報告書である。
- 2 本書には国庫補助事業のうち、高松市内遺跡発掘調査事業として令和4年12月から令和5年11月にかけて実施した試掘調査及び内容確認調査について収録した。なお、令和5年12月以降の実施分については、次年度に報告する予定である。
- 3 調査は、高松市創造都市推進局文化財課文化財専門員 高上 拓・香川 将慶・梶原 慎司・品川 愛・宮田 匡、同会計年度任用職員 森原 奈々・磯崎 福子が担当した。
- 4 本書の執筆は、高上・香川・梶原・品川・森原が行い、編集は磯崎が担当した。
- 5 本書の挿図として、高松市都市計画図2千5百分の1を5千分の1、又は2千分の1に改変して使用した（調査地位置図内の網かけは、調査対象地を示し、色の薄い部分は埋蔵文化財包蔵地を示す）。
- 6 本書のうち標高値を示したものは海拔高を表し、座標は国土座標Ⅳ系（世界測地系）に拠った。
- 7 発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会にて保管している。

## 目次

第1章 高松市内遺跡発掘調査事業（令和4年12月～令和5年11月）	1
1. 飯田西15号塚	1
2. 讃岐国分寺跡	2
3. 萩前・一本木遺跡	10
4. 三谷町横内東地区	11
5. 新名氏屋敷跡	12
6. 上林町本村地区	13
7. 林町宗高地区	13
8. 条里跡	14
9. 多肥上町平塚地区	15
10. 条里跡	16
11. 西山崎町本郷地区	17
12. 太田下町蛙股地区	19
13. 御厩南部1号塚	19
14. 上林町本村地区	20
15. 条里跡	20
16. 円座町道下地区	21
17. 多肥上町北原地区	21
18. 条里跡	22
19. 香西南町西打地区	23
20. 三谷町北原地区	24
21. 条里跡	24
22. 旧南海道跡	25
23. 多肥上町日暮地区	25
24. 林町宗高地区	26
25. 条里跡	26
26. 久本古墳	27
27. 三谷町下所上地区	28
28. 六条町上所地区	29
29. 仏生山町中障子地区	29
30. 多肥上町北原地区	30
31. 円座町上円座地区	30
32. 林町宗高地区	31
33. 田村町大竹地区	32
34. 池内城跡・香南町城地区	34
35. 林町中林地区	35
36. 佐村遺跡	36
37. 新名氏屋敷跡	37
38. 木太町下西原地区	38
第2章 重要遺跡確認調査（令和4年12月～令和5年11月）	39
39. 史跡讃岐国分尼寺跡	39



第1図 調査地位置図

# 第1章 高松市内遺跡発掘調査事業（令和4年12月～令和5年11月）

## 1. 飯田西15号塚

- 1 所在地 高松市飯田町
- 2 調査期間 令和4年12月21日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

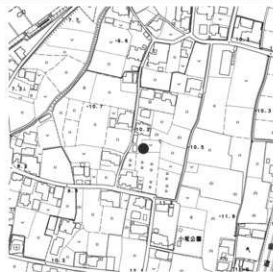
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「飯田西15号塚」を含む。事業者から依頼を受け確認調査を実施した。調査目的は塚の範囲確認とし、塚の周辺に2本のトレンチを設定して人力で掘削した。調査に先立ち測量調査を行い、塚の規模を確認した。周囲が既存の擁壁によって一部切られているものの、残存部の規模は直径約7mの略円形で高さ約1.4m程度と比較的規模の大きな塚である。

塚の表面清掃及び観察の結果を列記すると、上面にやや平坦な面が形成されている。石造物等の設置は確認できない。中世～現代にかけての多種多様な遺物が散布している。

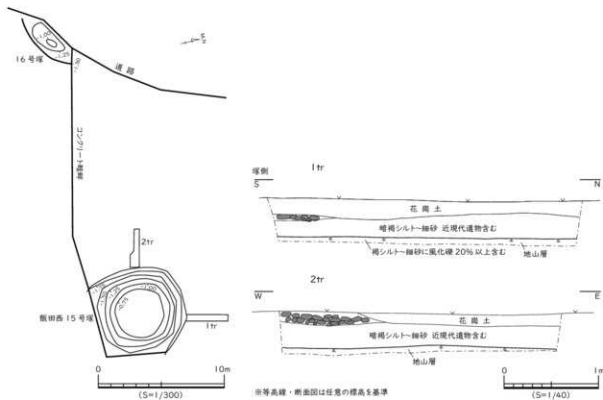
周辺のトレンチ調査では、塚の裾部の一部が花崗土によって埋没している状況を確認した。いずれも現在地表に露出する塚の裾部より外側に南北方向で1m、東西方向で0.5m程度裾部が広がっている。この墳丘範囲は近代以降に周囲に石等が集積されて塚の範囲が拡大した部分に相当する。なお、周濶等周辺施設は伴わないものと考えられる。以上をまとめると、今回の調査によって飯田西15号塚の位置・規模を確認することができた。

### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地である。今後も適切な保護措置が必要である。（高上）



第2図 調査地位置図 (1/5,000)



第3図 塚平面図・断面図 (1/300・1/40)

## 2. 讃岐国分寺跡

- 1 所在地 高松市国分寺町国分  
 2 調査期間 令和5年1月11日～令和5年1月20日  
 3 調査担当者 香川 将慶・森原 奈々  
 4 調査の原因 個人住宅建築  
 5 調査の概要

対象地は、特別史跡讃岐国分寺跡の寺城北西隅に隣接する。宅地造成及び戸建住宅新築工事が計画され、令和4年6月23日～7月1日に試掘調査を実施したところ、埋蔵文化財の包蔵状況が確認できたことから周知の埋蔵文化財包蔵地「讃岐国分寺跡」として登録された。

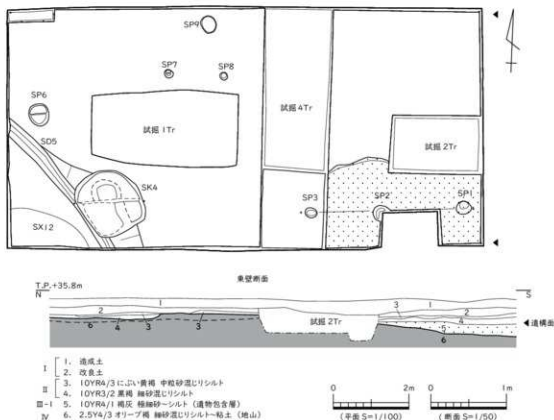
令和4年12月19日に事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、12月19日に、香川県教育委員会から、既に着工済みの造成工事については厳重注意、建物基礎工事に発掘調査、配管工事には立会調査の行政指導がなされた。これにより、高松市と事業者が協定を締結し、発掘調査と工事立会を実施した。

## (1) 基本層序

調査時点ですでに宅地造成の盛土工事が完了しており、造成後の地盤から約0.2～0.3mの深度で遺構面を検出した。現地形は北から南へと緩やかに傾斜する緩斜面である。基本層序は、Ⅰ層は造成土・改良土、Ⅱ層は旧耕作土の床土、Ⅲ層は褐色～灰黄色砂礫まじりシルトで古代以降の遺物を含む。この層は調査区南半に部分的に堆積し東側をⅢ-1層、西側をⅢ-2層とし、上面で遺構を検出した。Ⅳ層はオリブ褐色のシルト～粘土の地山である。北半ではⅣ層、南半ではⅢ層上面が遺構面となる。



第4図 調査地位図 (1/5,000)



第5図 調査区平面図・断面図 (1/100・1/50)

## (2) 遺構・遺物

調査後、検出した遺構と埋土の特徴や出土遺物を精査したところ、検出した遺構は、SP(ピット)7基、SK(土坑)1基、SD(溝)1条、SX(性格不明遺構)1基である。特にⅢ-2層とした南半の褐灰色層をいくつかの遺構として調査したが、埋土の特徴や出土遺物が古代から近世初頭まで時期幅があり明確な根拠がないことから一括の遺構(SX 12)として認識した。

Ⅲ-1層は南側にむかって緩やかに傾斜している。出土遺物は、1の十瓶山窯産須恵器の杯である。口縁部内外面に炭素が吸着し、底部は回転ヘラ切りである。佐藤編年<sup>1)</sup>のⅡ-4期(13世紀後半)に所属する。2はサヌカイト製打製石織である。風化が著しい。この遺物包含層はSP 1~3の遺構面となり、中世後半以降に形成されたと考えられる。

SP 1~3は直径約35~50cm、深さ約40cm、東西方向に並ぶ柱列で掘立柱建物か柵列の可能性がある。Ⅲ-1層上面で検出した。SP 1から3と4、SP 2から5と6が出土した。3は須恵器碗の底部である。貼付高台。4は土師質土器杯の口縁部である。5は灰釉陶器碗の底部である。底部は回転系切りで、丸みのある高台を貼り付ける。内面にわずかに灰釉が観察できる。胎土は精良で焼成は良好である。6は黒色土器内黒碗の底部である。SPから出土した遺物は、古相を示すが、いずれも細片であり、周りの遺物包含層からの混入品と考える。

SD5は、幅40cm程の浅い溝である。7の須恵器口縁部片が出土した。

SK4は直径約1.6m、深さ25cmの円形の土坑である。SX 12を切っている。埋土は褐灰色を呈する細砂~シルト層である。8は土師質土器皿である。底部は回転ヘラ切り痕である。9はほぼ完形の土師質土器小皿である。

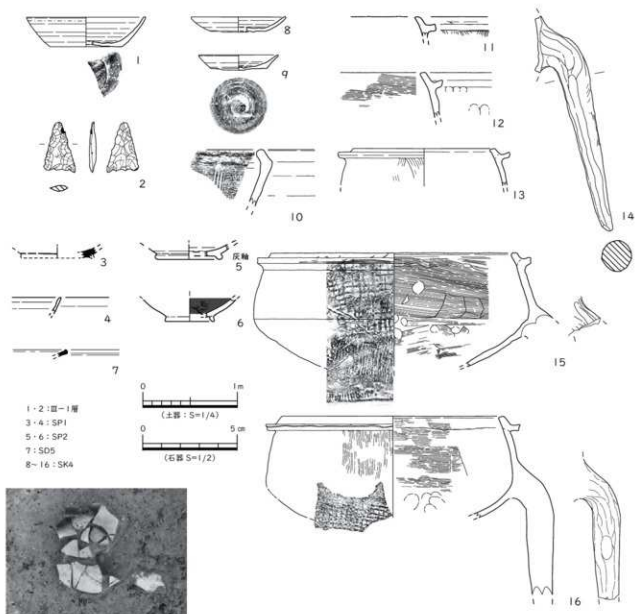
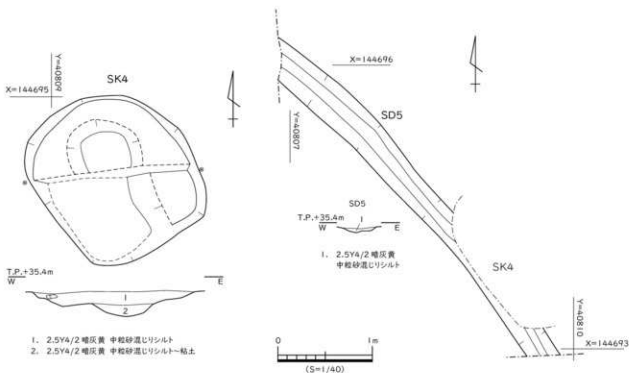
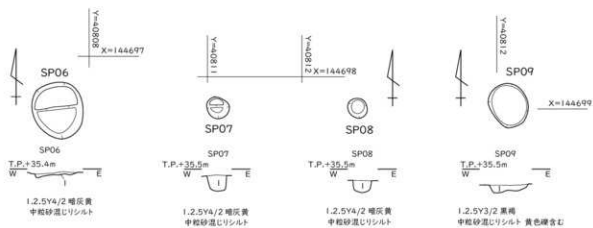
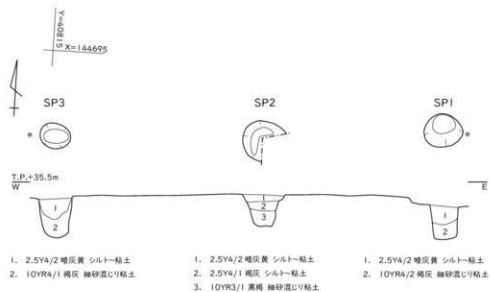


写真1 Ⅲ-1層上面 土器1出土状況

第6図 包含層とSP・SD・SK出土遺物実測図(1/4・1/2)



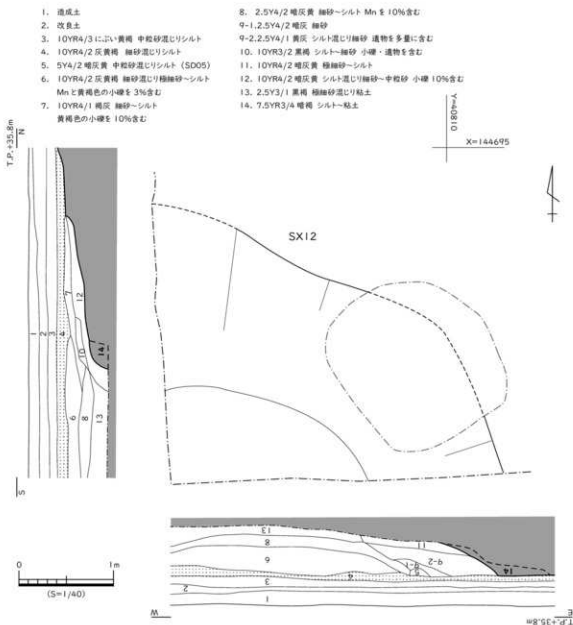
第7図 SP・SK・SD 平面図・断面図 (1/40)



底部は回転ヘラ切り痕である。10は土師質土器摺鉢の口縁である。口縁部は内湾し端部は丸く収める。内面に5条の摺目を施す。内外面に黄白色の化粧土を塗布し精良な作りである。佐藤編年<sup>12</sup>において口縁部が内湾する土師質土器摺鉢に該当し、時期は中世後期から様相1(近世初頭)まで下る。11~16は土師質土器の土釜もしくは足釜である。足釜は底部から体部の屈曲が強く、境に脚部を貼り付ける。頸部を屈折させ短い口縁部を貼り付ける。体部内外面のハケ調整は顕著である。佐藤編年<sup>13</sup>の足釜A1類の口縁2技法(鈎部屈折法)に該当し、13世紀後半から14世紀前半に時期比定される。出土遺物から中世後半~近世初頭に埋没したと考えられる。

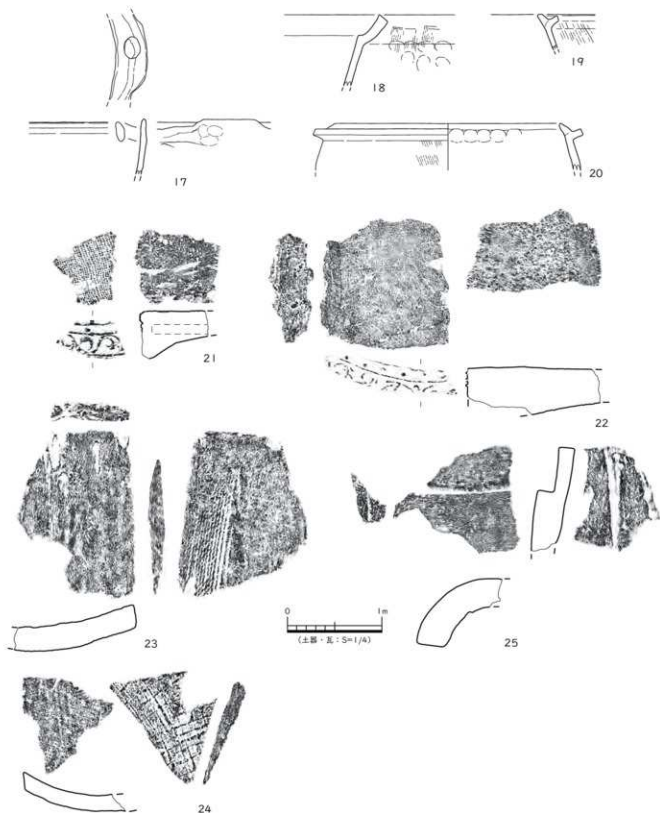
SX12は、調査区南西隅で検出した南北・東西とも4~5m以上、深さ約50cmの落ち込みで、調査区南側に広がる。SK4に切られる。埋土は灰黄色を呈する粗砂~シルト層である。5箱分の古代瓦が出土した。完形の古代瓦はなく、いずれも20cm以下の破片である。

17は土師質土器の外耳鍋である。18は土師質土器鍋の口縁部である。口縁内面の屈曲は強く口縁部は内湾する。外面は煤が付着する。19・20は土師質土器土釜の口縁部である。21は偏向唐草文軒平瓦である。左から右へ蔓草が緩やかに流れる。上外区に珠文を配し、下外区は欠損している。曲線頸、凹面は布目痕。時期はIV期(平安期)<sup>18</sup>に比定される。22は均整唐草文の平瓦である。瓦当文様や出土位置から創建期のSKHO1式(II期)<sup>19</sup>と考えられるが、剝離欠損で左上1/4程しか残っておらず型式細分は判断しがたい。上外区は珠文を配し、内区文様の唐草文の線がシャープで全体的に精緻な印象を受ける。凹面は布目痕が残り、桶巻き作りの痕跡



第8図 SX12平面図・断面図(1/40)

は判別し難い。凹面の側面にケズリ調整を施す。色調は灰色系で砂粒を多く含み焼成堅緻である。23は縄目叩きの平瓦片である。凸面に縦方向の縄叩きを部分的に行い、凹面は布目痕が残る。一部被熱を受け煤が付着している。24は格子叩きの平瓦片である。凸面格子叩きの格子サイズは7mm前後から10mm前後と均等ではなく、彫の深さは浅い。凹面は布目痕が見られる。色調は浅黄白色で焼成は軟質である。25は玉縁式丸瓦である。凹面に布目痕が、凸面にナデ整形が見られる。出土遺物は古代から中世後半期にかけての時期幅のある遺物を含む。



第9図 SX12 遺物実測図 (1/4)

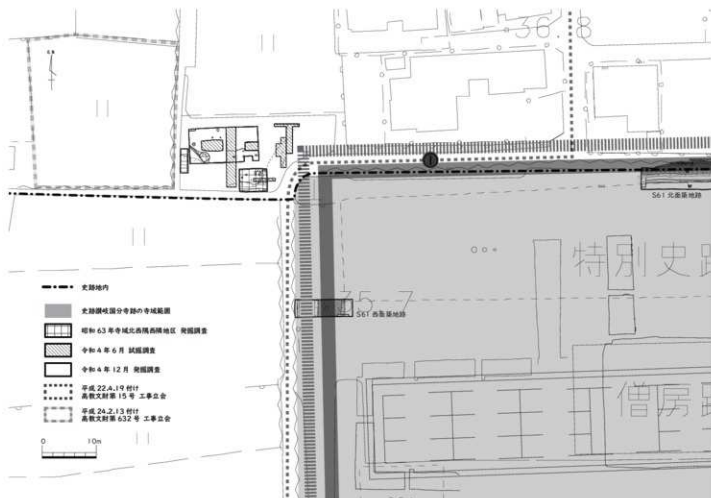
## 6 周辺の調査成果と今回の調査との関係

同一地番内と近接地で行われたこれまでの各調査と今回の試掘調査及び発掘調査の成果を統合し第10図に整理し、寺域北端の検討を行う。なお、測量精度の差等により、位置関係に多少の誤差を含んでいる。加えて、調査以外の土地利用では、近世以降、調査地南端の東西方向の表層地割を示す小道が第八十番札所讃岐国分寺から第八十一番札所白峰寺に向かう過路道として利用されていたことがわかっている。その名残として、史跡北東隅の土壇には「二丁目」の丁石があり、西へ折れ直進し野間川を渡った突き当りの公民館前には「へん（以下埋没）」と刻まれた「三丁目」の丁石が現存する<sup>4</sup>。

まず最も古い昭和63年調査<sup>75</sup>では、約25㎡の調査が行われた。南端で東西方向の溝（落ち込み？）を検出している。この東西方向の溝については寺域内・北端築地地区で確認された築地堀に伴う雨落溝SD36（SD6130）の延長線上にあることは示唆されているが、築地基底部が確認されなかったため、寺域は西に広がらないと判断されている。また近年刊行された整理報告書<sup>76</sup>では、この溝は近世段階の水田造成による掘削と判断されている。遺物は細片のみで図示されていない。

試掘調査では、約56㎡の調査が行われた。遺構面から溝2条、ピット3基、性格不明遺構3基を検出し、古代瓦が多く出土した。また、遺構面から寺域の北西隅を湾曲する礫層を検出している。断面面において層の境が明瞭に確認できるが、この礫層の性格は判断し難い。今回の発掘調査ではこの礫層の広がりは確認されていない。

その他、北端に接する史跡外の工事立会（平成22年4月19日付け高教文財第15号）の①地点では、多量の瓦を含む包含層（灰褐色シルト質極細砂）が確認されており、築地堀に伴うものと考えられる。また、今回の調査地西隣接地の水路工事に伴う工事立会（平成24年2月13日付け高教文財第632号）では、寺域北限の西側延長上に当たる箇所、同じように古代瓦の遺物包含層が確認されている。このように、今回の調査内容も含めて寺域外にも関わらず寺域北端区画施設の延長線上に約50m以上に渡って古代瓦が一定量出土することには注意すべきであり、築地堀の可能性も含め瓦葺建物の存在を想定しても不自然ではないほどの瓦の出土量である。



第10図 これまでの調査 (1/700)

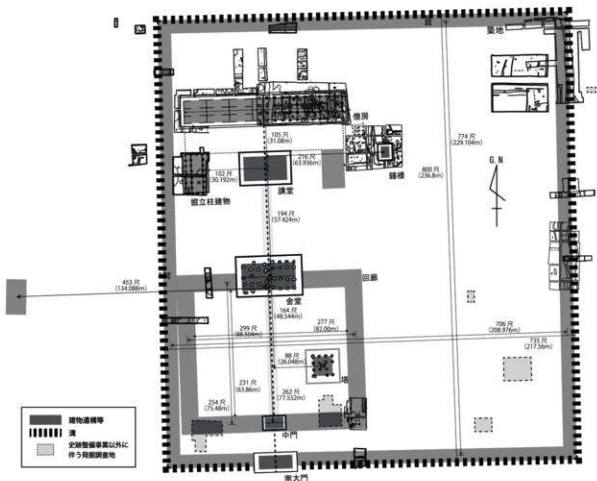
## 7 讃岐国分寺の寺域について

これまでの調査によって、讃岐国分寺は東西 220 m、南北 240 m の寺域を持ち、西側 1/4 を画する南北線を伽藍の中軸線とし、主要堂塔が寺域の西側に片寄って配置されていることが判明している。このような西主軸型の伽藍配置となっている寺院は他所でも存在するが、讃岐国分寺では回廊と築地とが接近して極めて窮屈な伽藍になっている<sup>11)</sup>。また、寺域東端に関しては、昭和 58 年度調査によって、地境より 10 m ほど西側（内側）の位置で東面築地堀跡を検出したことから、中世に寺域東限は東側に移動があった可能性が指摘されている<sup>16)</sup>。寺域西端に関しては、昭和 61 年度の金堂跡西方地区の調査によって、築地基壇の地山削り出しと外側大溝の落ち際と報告されているが、築地の基礎構造や区画溝の不確実性など北・東端区画施設とは様相が異なるので検討を要する。可能であれば、現在寺域境界と考えられている遺構をまとい、東西方向に長い調査区を設定する必要がある。推測の域をでないが、古代末から近世初頭の間の時期で、低湿な西側からより高燥な東側に寺域が移動する契機があり、主要堂塔や北端区画施設は位置を変えず、東端と西端の区画施設が東に移動した可能性を想定しておく。

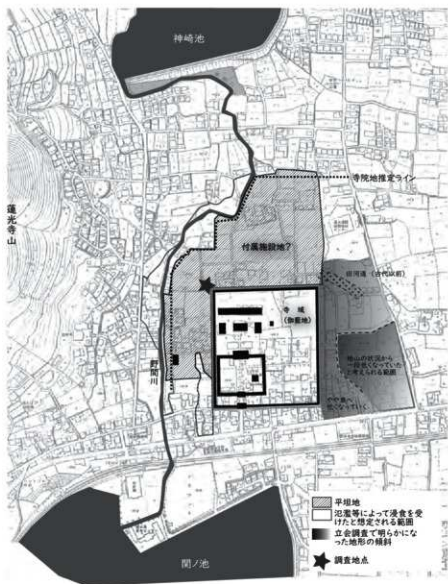
## 8 まとめ

今回の調査では、中世以降の柱穴列や、土坑などの遺構を確認した。当該地は、寺院の付属院推定地の一つ北方の平坦地<sup>16)</sup>に当たり、他の国分寺の調査事例のように寺院を管理運営する施設の存在が想定されている。地割に沿った柱穴列 SP 1～3 などはこういった寺院運営施設に関連する施設の一部と推測することができる。また、SK4からは中世後半以降の供膳具や調理具などが出土しており、近くに寺院付属施設の炊事に関わる施設を想定できる。

そして、築地堀の痕跡や区画溝といった寺域区画施設を直接的に示す遺構は確認できなかったが、南側で検出された褐灰色の遺物包含層（Ⅲ層）や SX12 が南側に傾斜する状況が観察でき、この土層から古代瓦が大量に出土することから寺域の北端を示す可能性を示唆しておく。狭小な範囲での調査においては、遺構として寺域区画施設を確定することは困難と言える。そのため、「二次的移動」や「後世の削平」など消極的な捉え方をされてきたが、これまでの調査成果を統合しその状況を鑑み、古代瓦の出土に焦点を当て点と点がつながり線になってきている状況を積極的に評価し、今後の西方地区への調査に生かす必要がある。今後も周辺を調査する際には、讃岐国分寺各期に対応する寺域の変遷や付属施設などの検証作業が引き続き必要と考える。（森原）



第 11 図 讃岐国分寺の伽藍配置 (1/2,000) \*文献 6 より



第 12 図 讃岐国分寺周辺の地形復元と伽藍 \*文献 6 より一部加筆

<参考文献>

1. 佐藤竜馬 2000「第5章まとめ 第1節高松平野と周辺地域における中世土器の編年」『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 空港跡地遺跡Ⅳ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
2. 佐藤竜馬 2003「第3節 近世在土器の検討」『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊 高松城跡(西の丸町地区)Ⅱ 第1分冊』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
3. 佐藤竜馬 1995「第2節 楠井産土器の編年」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 国分寺楠井遺跡』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
4. 田中直樹 2005「第5編民俗 第5章信仰 第3節遍路」『さぬき国分寺町誌』国分寺町
5. 国分寺教育委員会 1988『S 63 年度 特別史跡讃岐国分寺跡発掘調査の概要(推定経蔵地区・寺域北西隅西隣地区)』国分寺教育委員会
6. 渡邊誠 2018『特別史跡讃岐国分寺跡Ⅰ』遺構編 高松市教育委員会
7. 渡邊誠 2019『特別史跡讃岐国分寺跡Ⅰ』遺物編① 高松市教育委員会
8. 香川将摩・渡邊誠 2020『特別史跡讃岐国分寺跡Ⅰ』遺物編② 高松市教育委員会
9. 高松市教育委員会編 2022『高松市埋蔵文化財発掘調査報告第243集 高松市内遺跡発掘調査概報-令和4年度国庫補助事業-』
10. 渡部明夫 2013『讃岐国分寺の考古学的研究』樹岡成社
11. 松本豊胤 1987「讃岐」『新修国分寺の研究』第5巻上南海道 吉川弘文館

### 3. 萩前・一本木遺跡

- 1 所在地 高松市仏生山町
- 2 調査期間 令和5年2月3日～2月14日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 マンション建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「萩前・一本木遺跡」内に位置する。調査に当たって12本のトレンチと、発掘調査中の第3調査区を拡張した幅広のトレンチを設定した。当該地の基本層序は造成土、橙色～灰色シルト層（1層）、黒色シルト層（2層）、黄色シルト層（3層・地山）である。確認調査の結果、敷地西側では地表下30～40cmの深さまでコンクリート改良がなされており、コンクリート改良部分の下では局所的に攪乱が深く及ぶことが確認された。敷地東側では造成土の厚さが地点によって異なることが判明した。敷地東側ではほぼ全てのトレンチで黒色シルト層が確認されており、周辺の調査状況を踏まえると堅穴建物の埋土である可能性がある。

#### 6 まとめ

確認調査の結果、対象地では局所的に遺構が残存していないと考えられる場所があるものの、ほぼ全域で古墳時代～古代の遺構面が確認された。今後も当該地で開発行為がなされる際には適切な保護措置が必要であると考えられる。（品川）



第13図 調査地位圏図 (1/5,000)

#### 4. 三谷町横内東地区

- 1 所在地 高松市三谷町
- 2 調査期間 令和5年1月24日・2月17日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 診療所建築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「横内東遺跡」に隣接する。事業者から依頼を受け試掘調査を実施した。調査に当たりまず1月24日に4本のトレンチを設定して掘削した。調査の結果、地山である明黄褐色シルト-粘土層を基盤層とする遺構を複数確認した。地山までの深度は場所によって異なるが、概ね西側が高く東側が低い。これは当地の旧地形を反映したものであろう。また、対象地中央で南北方向に延びる溝を複数確認した。遺構埋土中からは土師器や須恵器片及び鉄器の可能性のある細片が出土しており、時期の特定は困難であるが周辺の調査状況から推測して古代から中世にかけての遺構であると考えられる。なお、地山の被覆土からある程度遺物が出土しているが、近世以降に降る遺物は含まれない。以上をまとめると、対象地に広く遺構が分布する状況が認められる。遺構密度はあまり高くなく、遺物の出土量もあまり多くない。検出した遺構は南北方向に延びる溝であるが、類似の状況は南側に隣接する横内東遺跡でも確認されていることから、一体的に把握するのが適当であろう。

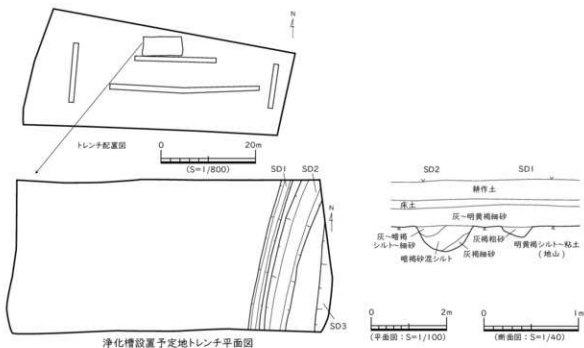
その後、当地において開発が計画され、開発計画の中で比較的広範囲に掘削及び浄化槽設置予定範囲を対象に確認調査を実施した。調査の結果、東側では中世に属すると考えられる溝が3条(SD1~3)確認できた。このうちSD1・2についてはいずれも地山を基盤層とし、砂を主体とする埋土によって埋没する。埋土中に中世土器を少量含む。溝はいずれも並行し、緩やかに湾曲しつつ北東方向に延伸する。以上をまとめると、南北方向に延びる溝群が展開することが明らかになった。

#### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地と認められる。包蔵地名称は上記の理由から「横内東遺跡」とする。今後の開発に対しては適切な保護措置が必要である。(高上)



第14図 調査地位置図 (1/5,000)



第15図 トレンチ配置図・平面図・断面図 (1/800・1/100・1/40)



## 5. 新名氏屋敷跡

- 1 所在地 高松市国分寺町新名
- 2 調査期間 令和5年2月28日～3月1日
- 3 調査担当者 高上拓
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「新名氏屋敷跡」内に位置する。確認調査の依頼を受けて調査を実施した。

対象地の地形を概観すると、対象地の南西側に最高部を有す丘陵の北端に相当する。対象地北端には現況1.0mを超える段差が形成されており、以北に比べて明瞭な段を持つ高地に中世城館が存在したと想定されている。

現況は中央に複数の邸宅等が所在し、その南北がそれぞれ荒蕪地である。邸宅所在地は調査が不可能であり、今回は南北の荒蕪地を対象に調査した。北側を北地区、南側を南地区と呼称する。いずれも繁茂した植物が深い藪を形成しており、特に南地区ではそれらを利用して調査区を設定した。結果、北地区では1～4tr、南地区では5～8trの8か所の調査区を設定した。北地区では全域で現地表面から約0.4～0.5mの深度で黄橙色系統の粘土（地山）を遺構面とする遺構群を確認した。密度は比較的密で、溝・土坑・ピットを確認した。いくつかの遺構を掘削したところ、中世以前の遺物のみを出土する遺構は確認できず、近世の遺物を伴うか、全く遺物が確認できないかのいずれかであった。埋土の異なる遺構の切り合いも確認しており（1・3tr）、遺構の形成は時期差を有することが想定される。

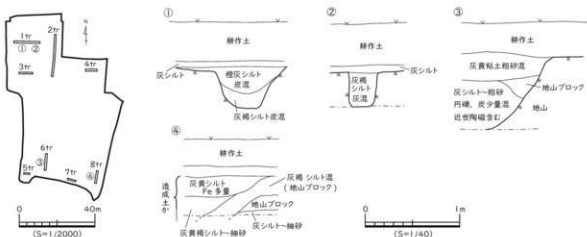
南地区でも現地表面から0.3～0.4mの深度で、北地区と同様の遺構面及び遺構を確認した。一方で、6trでは近世の大規模な遺構（断面③）が確認されており、近世以降の削平は北側よりも大きい可能性がある。また、調査対象地の東端に当たる8trでは現地表面より1.3m以上の深度で客土が認められ、堆積状況を詳細に確認したところ厚さ20cm程度の単位で北側に向かって傾斜して下がる堆積層群を確認した（断面④）。8trの東側道路際には50cm程度の石積みが見られ、石積み背面に盛土をして平坦地を形成した可能性が考えられる。堆積層群には近世磁器が1点含まれており、形成時期は近世以降と考えられるが、同時に比較的多量の中世の土師器片が出土しており注目できる。以上をまとめると、北地区・南地区ともに中世～近世にかけての遺構・遺物を確認しており、確認した範囲では近世以降に形成された遺構が目立つ。

## 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地である。今後の開発に対しては適切な保護措置が必要である。（高上）



第16図 調査地位圏図 (1/5,000)



第17図 トレンチ配置図・断面図 (1/2,000・1/40)



## 6. 上林町本村地区

- 1 所在地 高松市上林町
- 2 調査期間 令和5年3月28日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は「空跡地遺跡」の参考地内に位置する。事業者より試掘調査の依頼を受けて調査を実施した。調査に当たり4本のトレンチを設定した。基本層序を概観すると、表土と地山である礫層との間に、比較的粒径の大きな砂粒を多く含む堆積層が複数確認できる。この堆積層の一部に遺物が少量含まれており、遺物包含層としたが調査地北側に限定される。全域で遺構は確認できず、遺物は包含層から須恵器・土師器細片を少量確認したのみである。

### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(高上)



第18図 調査地位置図 (1/5,000)

## 7. 林町宗高地区

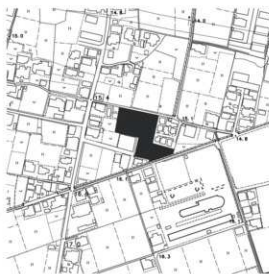
- 1 所在地 高松市林町
- 2 調査期間 令和5年4月3日～4月4日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「林宗高遺跡」に隣接する。事業者より依頼を受けて試掘調査を実施した。対象地の北半(1～5トレンチ)と南半(6～8トレンチ)で、埋蔵文化財の包蔵状況が異なるため、以下では北半と南半に分けて記述を行う。北半では表土・床土直下、風化の進んだ砂岩礫層が広く確認される。遺物・遺構は確認できない。

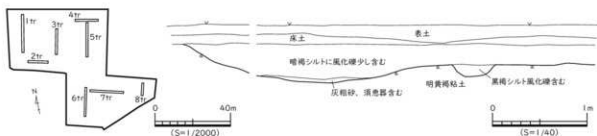
南半では表土・床土の直下、GL-0.2 m程度の深度で地山と考えられる明黄褐色粘土を検出した。7トレンチではこれを基盤層とした遺構が確認できる。さらに、旧河道の可能性のある遺構(SX1)埋土の最下層である、灰色粗砂中からは須恵器片(坏底部か蓋頂部か)及び土師器細片が確認されており、詳細な時期の特定は困難であるが、古墳時代～古代にかけてSX1が埋没したと考えられる。なお、遺構密度はSX1を含むとかなり密であるが、遺物量は極めて少ない。

### 6 まとめ

以上をまとめると、北半は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。南半では埋蔵文化財が確認されたため、新たに埋蔵文化財包蔵地「林宗高遺跡」とする。今後の開発に際しては適切な保護措置が必要である。(高上)



第19図 調査地位置図 (1/5,000)



第20図 トレンチ配置図・7トレンチSX1断面図 (1/2,000・1/40)

## 8. 糸里跡

- 1 所在地 高松市香南町由佐
- 2 調査期間 令和5年4月5日
- 3 調査担当者 高上拓
- 4 調査の原因 事務所建築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「糸里跡」内に位置する。事業者によって事務所建設が計画され、事務所建設予定箇所を対象に確認調査の依頼を受けて調査を実施した。

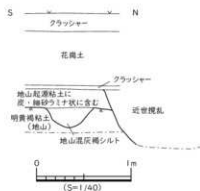
対象地の地形を概観すると、段丘状の微高地から北側に向かって下る緩やかな傾斜地に相当する。既に造成が実施されており、駐車場として利用されている。駐車場上面は北側に隣接する田よりも1.2m程高く、厚く造成が施されていることが想定された。遺構面の深度を確認することを主目的とし、駐車場としての利用状況も勘案して1本のトレンチを設定した。クラッシャーと花崗土・造成土を除去したところ、現地表面から-1.0mの深度で地山と考えられる明黄褐色の粘土を確認した。また、南側では地山を遺構面とする遺構(SD1、断面図)も確認したが、遺物は確認できず時期は不明である。以上をまとめると、事務所建設予定地における現地表面から遺構面までの深度は約1.0mである。

## 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地である。今後の開発に対しては適切な保護措置が必要である。(高上)



第21図 調査地位位置図 (1/5,000)



第22図 断面図 (1/40)

## 9. 多肥上町平塚地区

- 1 所在地 高松市多肥上町
- 2 調査期間 令和5年4月10日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 店舗建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥平塚遺跡」に隣接する。調査に際しては5本の調査区を設定し、南端の1トレンチと北端の4トレンチで埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。対象地全域の層序を整理すると、いずれの地点でも現地表面から0.5～0.6m程度の深度で砂岩円礫層（A層とする）が確認できる。隣接する多肥平塚遺跡では遺構面として認識された明黄褐色粘土層がA層上に確認できる地点も散見されるが、面的に安定して検出はできず、本調査地ではA層が遺構面となっている。

1トレンチでは溝の可能性のある遺構を確認した。埋土は黑色系統のシルトで、地表面からの深度は約0.5mである。平面的位置から、隣接する多肥平塚遺跡においてSD2ないしSX2とされた遺構と連結する遺構と考えられる。

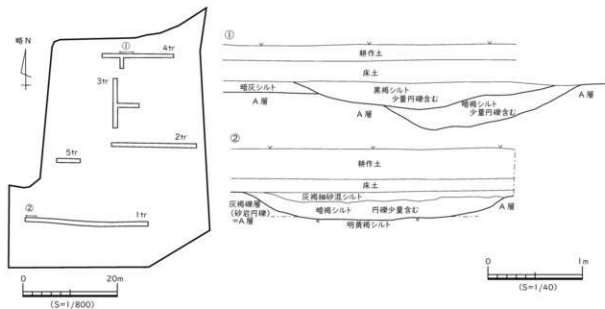
4トレンチでもA層を基盤とする遺構を確認した。南側に延伸する溝等の可能性を考慮して3トレンチを東側に、4トレンチを南側にそれぞれ拡張したが、結果として4トレンチの北側に延び、南側には広がらないことを確認した。なお、埋土中より比較的まとまった土師器・須恵器片が出土している。2・3・5トレンチでは、遺構・遺物ともに確認されなかった。

## 6 まとめ

対象地の南側の一部では隣接する多肥平塚遺跡から連続する埋蔵文化財の包蔵状況が確認できる。中央付近では一度断絶したのちに、再度北側で埋蔵文化財の包蔵状況が確認できる。結果として、飛び地状の範囲で埋蔵文化財の包蔵状況が確認された。包蔵地名は「多肥平塚遺跡」とした。今後の開発に際しては適切な保護措置が必要である。（高上）



第23図 調査地位置図 (1/5,000)



第24図 トレンチ配置図・断面図 (1/800・1/40)

## 10. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町由佐
- 2 調査期間 令和5年4月11日
- 3 調査担当者 高上拓
- 4 調査の原因 駐車場整備工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。調査に当たり3本の調査区を設定した。調査地の層序を確認すると、耕作土・床土の下に地山と考えられる明黄褐色粘土が全域で確認できる。地山を遺構面とする遺構を各所で確認した。地表面からの深度0.2～0.4 m程度で、南側に向かって緩やかに下降する傾向が把握できる。また、西側では地山上に薄く灰褐色系統シルトが堆積し、これを遺構面とする遺構も確認している。このため、局所的に2面の遺構面を確認したことになる。

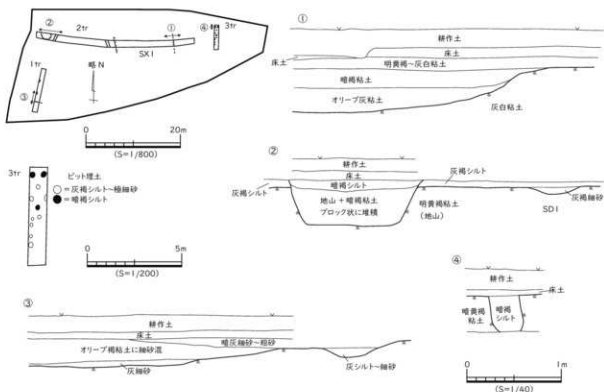
確認した遺構の特徴であるが、2トレンチ東側で規模の大きな溝と考えられる遺構を確認した（SX1、断面①）。これを挟んで東西で遺構の状況が大きく異なる。東側では多量のビット群が確認でき、埋土にも大別2種が確認できることから時期幅があることが推測される。また、一部のビット中には柱根石と考えられる礫が設置されていた。西側では溝・土坑が緩やかに分布しており、遺構密度は比較的希薄である。いずれの遺構からも遺物は確認できなかったが、地山直上を被覆する層位で出土した遺物は土師器甕・播鉢等の細片で、中世以前と想定できることから、検出した遺構の時期も中世以前と判断するのが妥当であろう。なお、上記の2面の遺構面の存在から、上面の遺構面で検出された遺構については相対的に新相を示すものと考えられるが、時期の特定はできない。以上をまとめると、対象地の全域で埋蔵文化財の包蔵状況が確認され、現地表面から遺構面までの深度は0.2～0.4 mである。

### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地である。今後の開発に対しては適切な保護措置が必要である。（高上）



第25図 調査地位図(1/5,000)



第26図 トレンチ配置図・断面図 (1/800・1/200・1/40)

## 11. 西山崎町本郷地区

- 1 所在地 高松市西山崎町
- 2 調査期間 令和5年4月13日～4月14日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 包蔵状況の確認
- 5 調査の概要

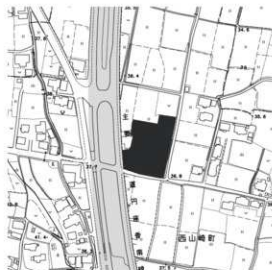
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「本郷遺跡」に隣接する。事業者より依頼を受けて試掘調査を実施した。対象地は北半が一段低くなっており、擁壁で区切られている。調査に当たっては北半に1～3トレンチ、南半に4～7トレンチの計7本を設定した。対象地の地形を概観すると、西側には堂山が位置し、山裾よりもやや平地側に当たる。さらに東側には緩やかな微高地が展開しており、周囲に比べると相対的に低地に相当する。このためか、調査地全体で湧水が著しい。

調査の結果、対象地全域で埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。検出した遺構は全て溝であり、北東～南西方向に伸びる。遺構面は明黄褐色粘土を基調としており、部分的に砂礫がこれに混じる地点も確認できる。現地表面からの深度は北半で約0.2～0.4m、南半で0.5～0.7mである。遺構から出土する遺物は極めて少ないが、4トレンチで遺構(SD2)最上層(黄褐～灰シルト)より古代の須恵器坏が、7トレンチ灰褐色シルト層からは中世の土師甕が確認されたほか、他の調査区でも遺構面直上で中世以前の須恵器・土師器が確認されていることから、遺構の形成時期は中世以前に位置づけるのが妥当である。

高松平野の条里地割は約N10°Eであることが知られ、調査対象地周辺にもこの地割が残されている。今回は部分的な試掘調査であり、溝の連続性(延伸方向)を特定することは困難であるが、位置関係から推測すると、まず断面①・③・⑤は同一遺構(SD1と称する)の断面と考えられる。SD1は概ねN40°Eで条里地割よりもさらに大きく東に傾く。同様に断面④・⑥を通過する溝(SD2と称する)を想定すると、概ねN20°Eとなり、これも条里地割とは一致しない。SD1・2以外の溝の延伸方向が確認できれば、条里地割に沿った遺構も確認できる可能性はあるが、いずれにせよ当地における地割の変化の過程を明らかにする上で重要な調査成果である。以上をまとめると、対象地は新たに埋蔵文化財包蔵地として周知する必要がある。なお、遺構密度はかなり密で、遺物量は極めて少ない。

### 6 まとめ

対象地を「本郷遺跡」として周知の埋蔵文化財包蔵地とする。今後の開発に際しては適切な保護措置が必要である。(高上)



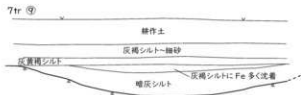
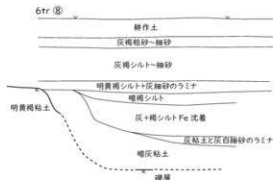
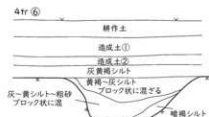
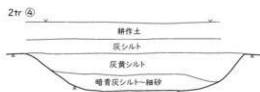
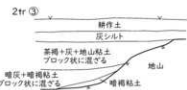
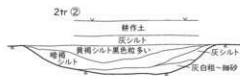
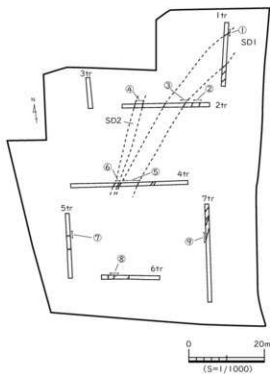
第27図 調査地位置図(1/5,000)



写真2 断面③



写真3 断面⑥



第 28 図 トレンチ配置図・断面図 (1/1,000・1/40)

## 12. 太田下町蛙股地区

- 1 所在地 高松市太田下町
- 2 調査期間 令和5年4月19日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 事務所建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「太田下・須川遺跡」に隣接する。調査に当たって2本のトレンチを設定した。旧耕作土・床土の下層で黒褐色粘土層を確認した。本層は周辺の調査において遺構埋土や遺物包含層として、あるいは遺構面として認識される堆積層と類似した特徴を有す。本調査でもごく少量であるが弥生土器片の可能性が高い土師質の土器細片を検出したが、遺構は確認できない。

隣接する太田下・須川遺跡の調査成果（香川県教育委員会1995）を参照すると、今回の調査地に隣接する範囲は遺構・遺物ともに希薄な範囲である。上記の黒褐色粘土層をはじめ、連続する堆積層は確認されるが、遺構が確認されず、遺物量も極めて希薄である点も共通性が高い。

### 6 まとめ

以上をまとめると、対象地はごく少量の遺物包含層が認められるものの、遺構は確認されない。このため、対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（高上）



第29図 調査地位置図 (1/5,000)

## 13. 御厩南部1号塚

- 1 所在地 高松市御厩町
- 2 調査期間 令和5年4月21日～4月24日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「御厩南部1号塚」である。事業者より依頼を受けて現況把握及び範囲確認のための確認調査を実施した。表面清掃を行ったところ、塚は現況で東西2.5m、南北4.5mの平面長楕円形を呈す。最高所と周辺の比高差は約0.5m程度で、北側にコンクリート製の立方体ブロックが置かれ、宝篋印塔の相輪と考えられる部材及び五輪塔の水輪がブロック中に一部埋め込まれている。本来塚に伴う石造物であったものが、二次的に改変されて現状を呈しているものと考えられる。

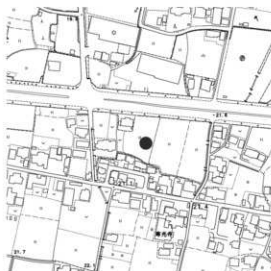
塚中央で断割り調査を実施したところ、表層は近現代遺物を多く含むのに対し、その下層で塚の中心を構成する層からは中世の土師器が比較的多く確認された。この点を重視すると、塚は中世に礫を乱雑に積み重ねることによって形成され、その後、礫等が盛り足されて現況を呈するという来歴が推定できる。

溝など周辺施設の有無及び埋没範囲を確認するため、周辺にトレンチを設定した。いずれも現地表面下0.2～0.3mの深度で、地山である礫層を浅く掘り込んだ遺構を確認した。埋土の特徴も類似しており、一連の遺構であると考え、塚の周辺を巡る浅い溝である可能性が高い。

溝までの範囲を一連の埋蔵文化財と考え、東西は約4.5m、南北は南側が不明だが同様の規模の溝が巡るとすると9.0mの範囲を対象に保護措置を検討する必要がある。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である。今後の開発に際しては適切な保護措置が必要である。（高上）



第30図 調査地位置図 (1/5,000)

## 14. 上林町本村地区

- 1 所在地 高松市上林町
- 2 調査期間 令和5年4月28日
- 3 調査担当者 高上拓
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「上林本村遺跡」に隣接する。事業者より依頼を受けて試掘調査を実施した。調査に当たって4本の調査区を設定した。対象地全体の基本的な層序として、耕作土下の円礫を含む灰褐色シルト層、灰色シルト層、風化礫層がほぼ全域で確認できる。局所的に3トレンチ北半では、風化礫層が北に向かって下降しており、その上に灰褐色砂層が確認できる。時期の特定はできないが、風化礫層堆積時の旧地形として北東側に低地が存在し、その低地が砂層で埋没して平坦化した過程が推定できる。遺構・遺物は全く確認されなかった。

## 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(高上)



第31図 調査地位位置図 (1/5,000)

## 15. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町吉光
- 2 調査期間 令和5年5月12日
- 3 調査担当者 高上拓
- 4 調査の原因 住宅建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。事業者より依頼を受けて確認調査を実施した。対象地には近年まで建造物（倉庫）が存在しており、それが撤去された状態であったため、資材等が散在する状況であった。これら避けて1本の調査区を設定した。調査の結果、現地表面から約0.75mの深度で遺構面を確認した。遺構面の土質は明黄褐色粘土～細砂である。東側に向かうにつれて砂質土の比率が増える傾向にある。確認した遺構は溝・ピットである。溝の埋土は灰色シルト～砂層、ピットの埋土は暗褐色シルトであり、埋土に違いが認められる。この埋土の差異は遺構の形成時期の違いを反映する可能性が推測できるが、遺物は全く出土せず、遺構の形成時期は不明である。

以上をまとめると、対象地全域では地表面から約0.75mの深度に遺構面が存在することを確認した。遺構の形成時期等の把握は今後の課題である。

## 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である。今後の開発に際しては適切な保護措置が必要である。(高上)



第32図 調査地位位置図 (1/5,000)



第33図 断面図 (S=1/40)



## 16. 円座町道下地区

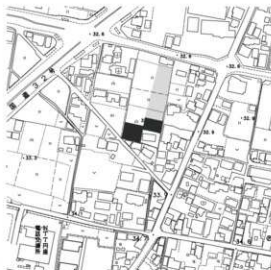
- 1 所在地 高松市円座町
- 2 調査期間 令和5年5月25日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 分譲住宅造成等工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「道下遺跡」に隣接する。調査の依頼を受け、試掘調査を実施した。調査に当たり、既存の樹木等を回避してトレンチ設定を行い、対象地の西半に3本、東半に2本のトレンチを設定した。調査の結果、西半では表土直下が地山の礫層であり、遺構・遺物は確認できなかった。局所的に礫層の上に黄白色シルト層が残る地点もあるが、大半は上部が削平された状況であると推測する。

東半では、隣接する道下遺跡で遺構面と認識された黄白色シルト層を基盤層とする遺構を確認したが、いずれも埋土中に近世以降の遺物を含む。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(高上)



第34図 調査地位置図 (1/5,000)

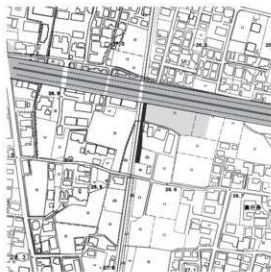
## 17. 多肥上町北原地区

- 1 所在地 高松市多肥上町
- 2 調査期間 令和5年6月15日～6月16日
- 3 調査担当者 梶原 慎司・宮田 匡
- 4 調査の原因 新駅整備工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥北原西遺跡」に隣接する。調査では、4本のトレンチを設定した。調査の結果、表土直下に近代以降の造成土が盛土されており、その下に現地表面下約0.3～0.6mの深さで、ぶい黄褐色シルト層の地山が認められた。地山上面では、近世以降の土坑を3基検出した。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(梶原)



第35図 調査地位置図 (1/5,000)

## 18. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町横井
- 2 調査期間 令和5年6月19日
- 3 調査担当者 高上拓
- 4 調査の原因 住宅建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。事業者より確認調査の依頼を受け、調査を実施した。調査に当たり、4本のトレンチを設定した。調査の結果、全ての調査区で共通する基本層序を確認した。上層から整理すると、耕作土・甘土の下層に暗灰褐色シルト層が確認される。この層は比較的多数の須恵器・土師器を包含する遺物包含層である。この下層が地山と判断した明黄褐色粘土～シルト層であり、地山を基盤層とする遺構を1・4トレンチでは確認した。なお、地山は周辺の自然地形に沿って南側がやや高く、北側がやや低い。包含層の埋没によって勾配が解消されて平坦化している。このため包含層は北側で厚く確認できる。

確認した遺構は比較的大きな溝（SD1）とピット（SP1）である。埋土中からは年代の特定が可能な遺物に恵まれなかったが、上記の包含層によって埋没・被覆されていることから中世以前の遺構であると評価できる。

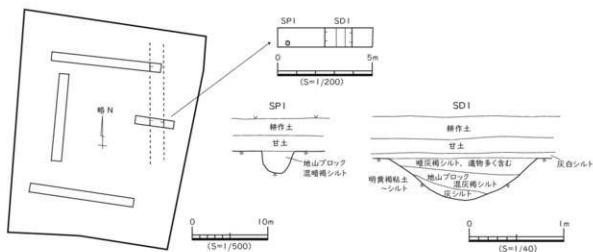
以上をまとめると、対象地の東側を中心にやや密に遺構が確認された。現地表面から遺構面までの深度は北東側で0.4～0.5 m、南西側で0.3 m程度である。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である。開発に際しては適切な保護措置が必要である。（高上）



第36図 調査地位位置図 (1/5,000)



第37図 トレンチ配置図・平面図・断面図 (1/500・1/200・1/40)

## 19. 香西南町西打地区

- 1 所在地 高松市香西南町
- 2 調査期間 令和5年7月24日～7月26日
- 3 調査担当者 高上拓
- 4 調査の原因 店舗建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「香西南西打遺跡」に隣接する。事業者より確認調査の依頼を受け、調査を実施した。調査の結果、全域で果樹園の耕作土及びその下層の堆積層は共通した堆積状況を見せる。一方で、おおよそ現地表面から0.4～0.6m以下の堆積状況及び埋蔵文化財の包蔵状況が、大きく南東側(1トレンチ北端以南、2トレンチ、5トレンチ南半)と北西側(1トレンチ北端、3～4トレンチ、5トレンチ北半)で異なることを確認した。

北西側では、現地表面から0.7～0.8mの深度で地山である明黄褐色粘土層が広く確認され、この層が遺構面となる(断面④・⑥・⑦)。粘土層は均質で厚く堆積しており、この点が後述する南東側と異なる。検出した遺構は大型の溝状遺構であり、西側に隣接する香西南西打遺跡(高松市教委2000『香西南西打遺跡』)で「谷」とされた遺構と連続するものと考えられる。3トレンチ中央から5トレンチ北半(南西-北東方向)に向かって伸び、東側では二股に分岐する可能性がある。埋土は黒色粘土が主体(断面⑤・⑦)で、今回の調査では埋土の最上位で中世の土師器が確認されているが、隣接地の調査では弥生時代前期の土器が確認されており、少なくとも埋没の開始は弥生時代まで遡る可能性が高い。

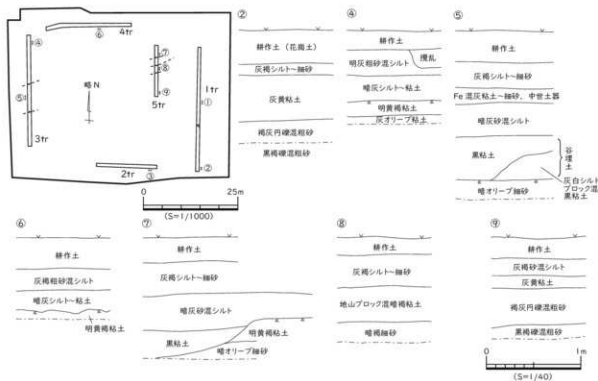
南東側では灰黄色粘土層の直下には風化礫を多く含む礫層が厚く堆積する。灰黄色粘土層は北東側で地山とした明黄褐色粘土に比べるとブロック状に混和した堆積状況が散見され、地山ではなく二次的に攪乱された可能性も考えられる。いずれにせよ、南東側では遺構・遺物が確認されなかった。

### 6 まとめ

以上をまとめると、北西側では明黄褐色粘土を基盤層とした遺構・遺物が確認され、南東側では遺構は確認されず、遺構に伴わない少量の遺物が確認されたのみである。このため、北西側を周知の埋蔵文化財包蔵地「香西南西打遺跡」とした。(高上)



第38図 調査地位置図(1/5,000)



第39図 トレンチ配置図・断面図(1/1,000・1/40)

## 20. 三谷町北原地区

- 1 所在地 高松市三谷町
- 2 調査期間 令和5年7月27日～7月28日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 事務所兼倉庫建設造成工事
- 5 調査の概要

対象地は三谷町北原地区に所在する。調査に当たって7本のトレンチを設定した。対象地の基本層序は甘土・床土、黄色シルト（地山）である。地山直上で複数の遺構を確認した。遺構の埋土は浅黄色～褐灰色シルト層と黄灰色～黒色シルト層を呈するものの2種類が確認された。黄色～褐灰色シルト層の遺構からは陶磁器片が出土しており、近世以降の遺構であると考えられる。

黄灰色～黒色シルト層の遺構からは土師器の直口壺が出土しており、弥生時代後期～古墳時代の遺構であると考えられる。

### 6 まとめ

調査の結果、弥生時代後期～古墳時代の遺構・遺物が確認された。従って当該地を周知の埋蔵文化財包蔵地「三谷北原遺跡」として新規登録し、今後対象地で開発行為が行われる際には適切な保護措置が必要であると考えられる。（品川）



第40図 調査地位図(1/5,000)

## 21. 糸里跡

- 1 所在地 高松市香南町横井
- 2 調査期間 令和5年7月31日～8月3日
- 3 調査担当者 梶原 慎司・宮田 匡
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「糸里跡」内に位置する。調査では、16本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.2～0.4mの深さで黄褐色シルト層の地山が認められた。地山上面では埋土が褐灰色シルトの土坑と溝が多数認められた。これらの遺構からは遺物がほとんど出土せず、1基のみから近世の瓦片が出土した。また、自然流路も1条認められた。

対象地の北西に隣接する土地では、令和2年度に確認調査を実施した際に近世～近代の遺構が検出されており、これらの時代の遺構が対象地まで広がっていると考えられる。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではあるが、確実に中世以前に遡ると考えられる遺構は確認できなかった。本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。（梶原）



第41図 調査地位図(1/5,000)

## 22. 旧南海道跡

- 1 所在地 高松市中間町
- 2 調査期間 令和5年8月4日
- 3 調査担当者 梶原 慎司
- 4 調査の原因 個人住宅建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」内に位置する。調査では、1本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約1.0mの深さで黄橙色シルト層の地山が認められた。地山上面では近代～現代の土坑3基と自然流路を1条確認した。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではあるが、確実に中世以前に遡ると考えられる遺構・遺物は確認できなかった。本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。(梶原)



第42図 調査地位置図 (1/5,000)

## 23. 多肥上町日暮地区

- 1 所在地 高松市多肥上町
- 2 調査期間 令和5年8月16日
- 3 調査担当者 品川 愛
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「日暮・松林遺跡」に隣接する。調査に当たって4本のトレンチを設定した。各トレンチでは、甘土・床土の直下で地山（黄色粘土または極粗砂まじり橙色シルト層）を検出した。

地山は対象地東側で変化しており、この地点より東では極粗砂まじり橙色シルト層、西側では黄色粘土層が見られる。地山直上で多数の遺構を検出したが、遺構は黄色粘土層が堆積する範囲に集中する傾向にある。遺構の埋土は3種類（白色シルト、黒色シルト、赤黒色～灰色シルト）確認した。埋土が白色シルトである遺構からは陶磁器片が出土したため、時期は近世以降と考えられる。埋土が黒色シルト層である遺構からは弥生土器片が出土した。埋土が赤黒色～灰色シルト層である遺構からは遺物は出土していないが、埋土が黒色シルト層である遺構に切られるものがあり、弥生時代以前の遺構と考えられる。

### 6 まとめ

対象地では弥生時代の遺構、遺物が認められた。遺構は黄色粘土層が堆積する範囲に集中して分布することからこの範囲を周知の埋蔵文化財包蔵地「日暮・松林遺跡」として範囲変更し、今後当該地において開発行為がなされる際には適切な保護措置が必要である。(品川)



第43図 調査地位置図 (1/5,000)

## 24. 林町宗高地区

- 1 所在地 高松市林町
- 2 調査期間 令和5年9月12日
- 3 調査担当者 高上拓
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「林宗高遺跡」に隣接する。事業者より試掘調査の依頼を受け、調査を実施した。調査に当たって重機を搬入したが、現地表が軟弱で、前日の降雨の影響もあり車体が沈み込むほどの状況であったことから、最初に重機搬入した北側では可能な限り重機掘削を行ったが、南側では重機の進入が不可能であった。北側の調査所見では、耕作土直下で地山である礫層が検出されており、遺構・遺物ともに確認されなかった。同様の堆積状況の広がりが確認できれば、南側の埋蔵文化財包蔵状況を推定することが可能と判断し、南側では人力掘削による調査を行った。

調査所見として、対象地全体で現耕作土直下（一部床土を挟む箇所もある）で地山である礫層が確認された。断割りから、礫層は厚く堆積することを確認した。遺構・遺物は確認できなかった。

### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（高上）



第44図 調査地位図 (1/5,000)

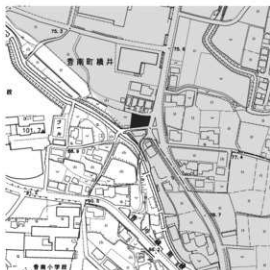
## 25. 条里跡

- 1 所在地 高松市香南町横井
- 2 調査期間 令和5年9月13日
- 3 調査担当者 品川愛
- 4 調査の原因 住宅建築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」に位置する。調査に当たって3本のトレンチを設定した。対象地内の基本層序は現地表面から順に甘土・床土、灰色～明黄褐色細砂（Ⅰ層）、橙色シルト層（Ⅱ層）である。Ⅰ層からはガラス瓶の破片が出土しており、近代以降の堆積層と考えられる。地山直上では中世以前に遡る遺構は確認されなかった。

### 6 まとめ

確認調査の結果、中世以前の遺構・遺物は確認されなかった。このため、本確認調査をもって対象地の保護措置は完了した。（品川）



第45図 調査地位図 (1/5,000)

## 26. 久本古墳

- 1 所在地 高松市新田町
- 2 調査期間 令和5年9月25日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 事務所建築工事
- 5 調査の概要

対象地の一部に、周知の埋蔵文化財包蔵地「久本古墳」が存在する。事業者より埋蔵文化財の範囲確認を目的とした確認調査依頼が提出されたことを受け、調査を実施した。対象地周辺の地形を概観すると、東側から西側に降る丘陵の緩斜面に位置しており、段状に整形された農地が広がる。対象地の北東には横穴式石室が開口しており、隣接する道路整備工事に伴う発掘調査によって、調査対象地まで古墳の周濠・周堤?が連続することがあらかじめ推定されていた(高松市教委2004『久本古墳』)。今回の調査は、対象地における埋蔵文化財の範囲と深度を確認することを目的としており、対象地の北東側に2本の調査区を設定した。東側を1トレンチ、北西側を2トレンチと呼称する。



第46図 調査地位置図(1/5,000)

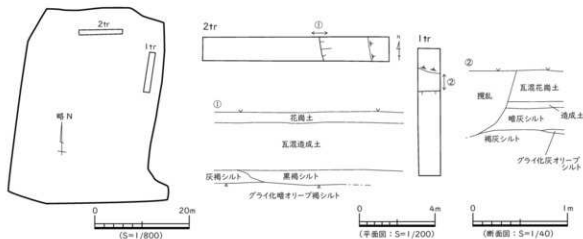
調査の結果、周濠の検出が期待された1トレンチ北側では北端付近が攪乱によって削平されており、周濠を確認することができなかった。ただし、断面①では若干ではあるがグライ化していない褐色シルト層が周囲に比べて高くなることを確認しており、周堤の一部に相当する可能性はあるものの明確ではない。なお、遺物は重機掘削中に中世の土師器足釜と須恵器体部片が出土したが、遺構に伴うものは確認できていない。

2トレンチでは東端から約3.5mの位置で、灰褐色シルトを掘り込んだ黒褐色シルトを確認しており、周濠の一部を検出した可能性がある。ただし、東端付近の攪乱によって溝の東側の掘り込みを確認することはできなかった。

以上を整理すると、1・2トレンチともに、古墳の周濠・周堤に対応する堆積を断片的にとらえることができていないものの、削平と攪乱によって対応関係を明確にすることはできなかった。対象地は古墳周辺でも西側の低地側に当たり、なおかつ段状に低く整形され、さらに造成が既に行われた土地でもある。周濠の掘り込みが当初から浅かった可能性も否定できないが、後世の削平の影響を大きく受けたことにより上記の結果を呈したものと推定する。

## 6 まとめ

対象地の一部は埋蔵文化財包蔵地である。今後の開発に際しては適切な保護措置が必要である。(高上)



第47図 トレンチ配置図・平面図・断面図(1/800・1/200・1/40)



## 27. 三谷町下所上地区

- 1 所在地 高松市三谷町
- 2 調査期間 令和5年9月26日～10月2日
- 3 調査担当者 品川愛・森原奈々
- 4 調査の原因 分譲住宅用地工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」に隣接する。調査に当たって19本のトレンチを設定した。当該地の地形を概観すると、南北方向は南から北に向かって緩やかに低くなり、東西方向は調査地中央付近がやや低く、調査地両端がやや高くなる。

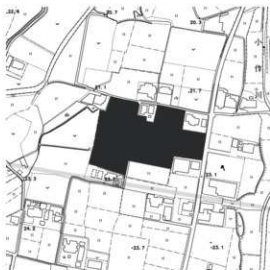
当該地の基本層序は、甘土・床土、暗褐色シルト～極粗砂(1層)、黄色細砂～シルト層(2層・地山)である。1層からは須恵器、土師器等が出土しており、古墳時代以降に形成された層である。

2層の起伏から旧地形を確認したところ、調査地中央では検出レベルが低く、調査地両端に向かって高くなっており、谷状地形の両岸に微高地が広がることを確認した。また、2層の検出レベルが低い地点では、1層と砂層が互層状に堆積する範囲が確認され、南北方向に自然流路が流れていたものとみられる。今回の対象地の南側で発掘調査した「横内東遺跡」でも同様の自然流路を確認していることから(高松市教育委員会編2015『横内東遺跡』)、その延長と考えられる。

2層上面からは、溝、ピット等の多数の遺構を検出しており、遺構からは土器片、須恵器片、石器等が出土している。遺構の時期は特定しがたいが遺構埋土と遺構面を被覆する1層に近世以降に降る遺物が確認されていないことから、中世以前の遺構である可能性が高いと考えられる。

### 6 まとめ

確認調査の結果、埋蔵文化財の包蔵状況を確認したため、全域を周知の埋蔵文化財包蔵地「三谷下所上遺跡」として新規登録した。今後当該地で開発行為が行われる際には適切な保護措置が必要であると考えられる。(品川)



第48図 調査地位圏図 (1/5,000)



第49図 トレンチ平面図 (1/1,000)



## 28. 六条町上所地区

- 1 所在地 高松市六条町
- 2 調査期間 令和5年10月3日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 事務所建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「六条上所遺跡」に隣接する。事業者より試掘調査の依頼を受け、調査を実施した。

調査の結果、対象地の東西で大きく堆積状況が異なることを確認した。西側は砂礫層が厚く堆積し湧水が著しい。また遺構・遺物は認められず、検出できる可能性も低いと推定した。一方で東側では黄褐色シルト～粘土層が地山層として広く確認でき、遺構・遺物を検出できる可能性があるものと判断して優先的に広く調査を実施した。なお、地山と想定した黄褐色シルト～粘土層は西側に向かって下ることを確認しており、西側は旧河道等が存在したことによる相対的に低地に相当すると推測できる。

以上を整理すると、旧地形に関する所見は得られたものの、遺構・遺物を確認することはできなかった。

## 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(高上)



第50図 調査地位置図(1/5,000)

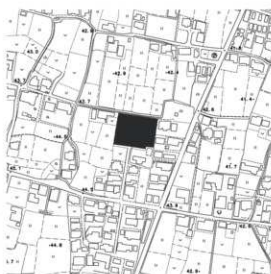
## 29. 仏生山町中障子地区

- 1 所在地 高松市仏生山町
- 2 調査期間 令和5年10月4日～10月6日
- 3 調査担当者 品川 愛・森原 奈々
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は仏生山町中障子地区に所在する。調査に当たって5本のトレンチを設定した。対象地の基本層序は甘土・床土、砂礫層(1層)、褐色シルト～極細砂層(3層・地山)、黄色シルト～極細砂層(4層・地山)である。1層に含まれる礫には一抱え程度の大きさがあるものが含まれており、人為的にもたらされたものである可能性がある。2層上面ではビット2基を検出した。調査地南東隅付近に設定した調査区では、他のトレンチの遺構面と同じレベルで遺物を多量に含む黒色シルト層を検出した。層中には焼土や炭が含まれていたことから、堅穴建物の埋土である可能性が高いと考えられる。器が出土しており、時期は古墳時代後期頃と考えられる。

## 6 まとめ

試掘調査の結果、古墳時代の遺構・遺物が確認された。従って当該地を周知の埋蔵文化財包蔵地「中障子遺跡」として新規登録し、今後当該地において開発行為が実施される際には適切な保護措置が必要であると考えられる。(品川)



第51図 調査地位置図(1/5,000)

ビット埋土や黒色シルト層からは蓋环等の須惠



第52図 出土遺物(1/4)

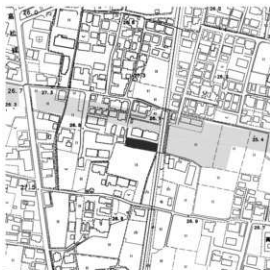
## 30. 多肥上町北原地区

- 1 所在地 高松市多肥上町
- 2 調査期間 令和5年10月4日～10月11日
- 3 調査担当者 梶原 慎司・宮田 匡・磯崎 福子
- 4 調査の原因 新駅整備工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥北原西遺跡」に隣接する。調査では、2本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面下約0.3～0.5mの深さにてふい黄褐色シルト層の地山が認められた。地山上面で、近世以前の遺構・遺物は認められなかった。

### 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(梶原)



第53図 調査地位図(1/5,000)

## 31. 円座町上円座地区

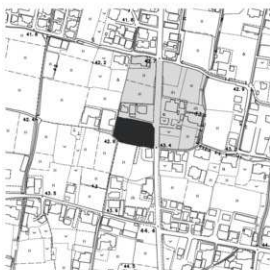
- 1 所在地 高松市円座町
- 2 調査期間 令和5年10月12日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「円座城跡」に隣接し、円座城跡の参考地である。事業者の依頼を受けて、試掘調査を実施した。対象地には畑及び倉庫、砂利道が所在しており、これらを見て掘削を実施した。調査に当たり、4か所のトレンチを設定した。1～3トレンチでは、近現代の造成土が厚く確認され、最大で1.2m程度掘削したところで旧耕作土を確認した。壁面崩落の恐れがあるため、範囲を限定して旧耕作土以下の床土、地山まで掘削を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。4トレンチは人力で掘削を行ったが、こちらも遺構・遺物は確認できなかった。

調査区設定の制限及び想定外に厚い造成土の存在により、遺構の確認は当初想定よりかなり狭い範囲でしか実施できていないが、遺構・遺物ともに確認できなかったことから、今回の調査成果から当該地を埋蔵文化財包蔵地と認めることはできない。

### 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(高上)



第54図 調査地位図(1/5,000)

## 32. 林町宗高地区

- 1 所在地 高松市林町
- 2 調査期間 令和5年10月24日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 店舗新築工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「林宗高遺跡」に隣接する。事業者の依頼を受け、試掘調査を実施した。調査に当たり4本のトレンチを設定した。対象地のうち南東側は既設の小屋等があり掘削できなかったため、隣接して設定したトレンチの成果を基に包蔵状況を判断することとした。

対象地の全域で埋蔵文化財の包蔵状況を確認したため、まずは基本的な層序を確認しておく。対象地の北西側では表土直下が地山であり、かつ遺構面となっている。一方で、南東側に向かって旧地形が緩やかに傾斜して降るためか、1トレンチ西端以外では表土と地山の間に間層を挟む。間層の土質は地点によってやや異なっており、2トレンチでは暗灰色シルト、3トレンチでは暗褐色シルト、4トレンチでは灰黄褐色シルト～細砂である。この間層を遺構面とした遺構が各地点で確認されている。また、一部断割りを行った3トレンチでは、地山を遺構面とした遺構も確認しており、遺構面は2面存在することを確認している。

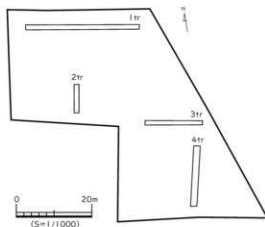
確認した遺構は比較的大型のものが多く、隣接地の調査成果や炭・焼土の集中地点が確認でき、竈の存在が推測できることから堅穴建物が展開しているものと考えられる。その他にもピット等も確認される。遺構には切り合いも確認され、3トレンチ東側では暗褐色シルトの遺構埋土を基盤層として、灰褐色シルトを埋土とする溝や掘立柱建物も確認している。遺物は出土していないが埋土の特徴と周辺の調査成果からは中世以降の遺構の可能性が考えられる。

## 6 まとめ

対象地の全域で遺構・遺物を確認したため、「林宗高遺跡」として追加登録された。なお、開発に先立ち発掘調査を実施した。(高上)



第55図 調査地位置図 (1/5,000)



第56図 トレンチ配置図 (1/1,000)

## 33. 田村町大竹地区

- 1 所在地 高松市田村町
- 2 調査期間 令和5年10月26日
- 3 調査担当者 高上拓
- 4 調査の原因 事務所建設工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業面積広大のため試掘調査を実施した。調査に当たり3本のトレンチを設定した。調査対象地はかつて市営住宅が所在した場所であり、現在は解体され整地されている。解体等に伴う擾乱が各所で認められるが、削平を免れた範囲で埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。基本層序を確認すると、造成の影響が少ない範囲では、旧耕作土及び床土が確認できる。床土中より近世瓦を確認したため、耕作土の形成は近世以降と考えられる。床土の下層からは、円礫・弥生



第57図 調査地位圏図 (1/5,000)

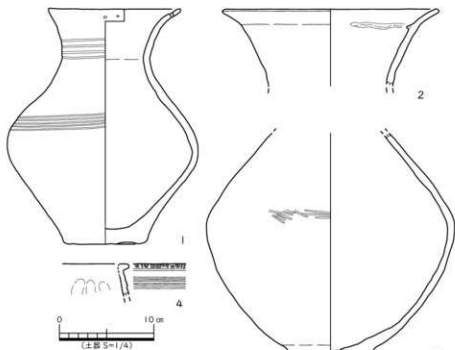
土器等を含む黒色粘土層が対象地全域で確認できる。厚い遺物包含層と評価することができ、遺物の包含量は濃密で、完形の土器も含む。さらにこの下層では、1・3トレンチで暗灰黄色～灰褐色の地山と考えられる粘土層が確認される。地山直上で遺構が確認されたため、地山直上で遺構面でもともと評価できる。なお、2トレンチでは遺物包含層直下が礫層であり、地山面に比べても相対的に高い。2トレンチ周辺では礫層が基盤層となっているが、この礫層中には遺物が含まれず、地山の土質が狭い範囲で切り替わっている可能性が高いが、今回の調査範囲では地山間の層序を確認することは出来ていない。評価は今後の課題であるが、礫層が自然堤防に由来する可能性等が想定できるだろうか。

包含層から出土した遺物の一部を図化して報告する。1は弥生土器壺。口縁部に2孔1対の穿孔。口縁部は欠損が大きく、本来の配置については不明。頸部・胴部に櫛描(?)の直線文。2・3は弥生土器壺。口縁部内面に粘土の貼り付けによる装飾。全周せず、末端が確認できる。3は外面にミガキ。4は弥生土器甕。逆L字の口縁で、刻み目を施す。ヘラ描(?)の直線文4条。資料の一括性は高くないが、弥生時代前期後半～中期前葉の時期が想定できる。

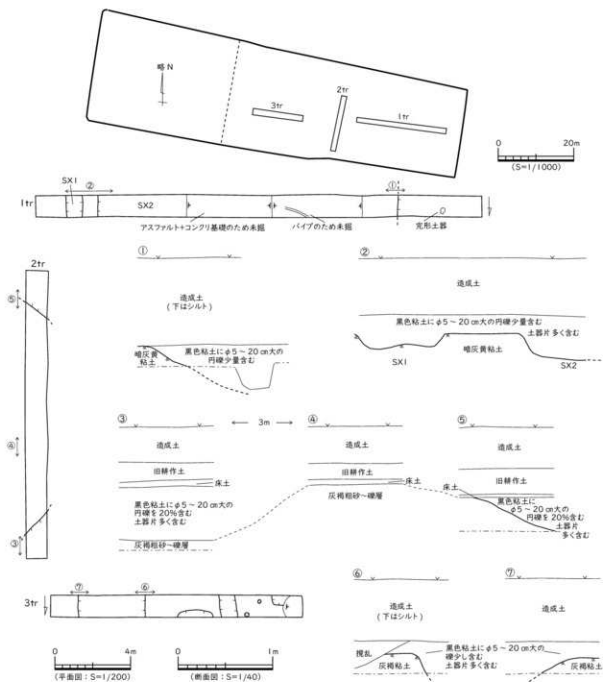
以上をまとめると、対象地の全域で遺構・遺物、濃密に遺物を包含する遺物包含層を確認することができた。

## 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地と認められる。名称は字名から「大竹遺跡」とし、新規登録された。(高上)



第58図 遺物実測図 (1/4)



第59図 トレンチ配置図・平面図・断面図 (1/1,000・1/200・1/40)

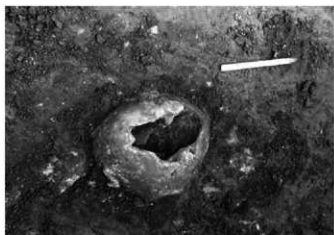


写真4 遺物出土状況



写真5 遺物出土状況

## 34. 池内城跡・香南町城地区

- 1 所在地 高松市香南町池内
- 2 調査期間 令和5年4月17日～10月31日
- 3 調査担当者 高上拓
- 4 調査の原因 包蔵状況の確認
- 5 調査の概要

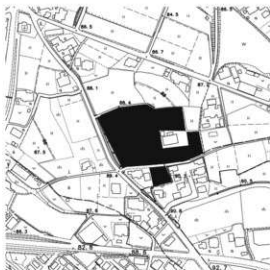
対象地はその大半が周知の埋蔵文化財包蔵地「池内城跡」に当たり、一部が包蔵地に隣接する。事業者より依頼を受けて試掘調査を実施した。対象地の一部は樹木及び農作物が所在していたこと等により掘削を行わず、周辺の調査状況から判断することとした。結果17本のトレンチを設定した。対象地の地形を概観すると、北側に向かって開けた微高地の先端付近に当たる。1～7、9～15トレンチでは、基本的に地上上に近世の遺物を含むシルト層が確認され、それを掘り込む溝・ピットを確認した。中世以前に遡る遺構は確認されず、遺物も土師器足釜が1片、上記の包含層中より確認できたのみである。

8・16・17トレンチでは、東西方向に延びる大型の溝跡を確認した(下図)。最大幅で約10mを測り、深度は1.3mを超える。堆積単位が大きく、ブロック状の土塊によって埋没していることから、短期間で人為的に埋め戻された可能性が高い。埋土最上層より近世の磁器片が出土していることから、埋没の完了は近世まで降る。埋土最下層は掘削深度が深くなり、安全のため掘削していない。対象地が中世城館として把握されていることを考慮すると、この大型の溝は堀跡に相当する可能性が考えられるが、今回の調査では形成時期が不明でかつ堀として城館を区画するものであるか、一辺のみの検出であることから評価は確定できない。今後この溝跡の所在する地点で開発等を計画する場合には、改めて確認調査を行い評価することが必要である。

以上をまとめると、8・16・17トレンチで確認した大型溝が埋蔵文化財として把握できる可能性がある以外には、埋蔵文化財の包蔵状況は確認できなかった。

## 6 まとめ

対象地のうち、隣接地として調査した範囲は埋蔵文化財包蔵地とは認められない。また、埋蔵文化財包蔵地のうち、大型溝以北の範囲については今回の調査によって保護措置が完了した。(高上)



第60図 調査位置図(1/5,000)



第61図 トレンチ配置図・断面図(1/2,000・1/50)

## 35. 林町中林地区

- 1 所在地 高松市林町
- 2 調査期間 令和5年11月1日～11月2日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 店舗建設工事
- 5 調査の概要

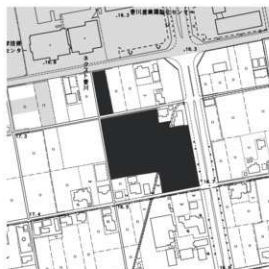
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「空港跡地遺跡」及び「上林遺跡」に隣接する。事業者より依頼を受けて、試掘調査を実施した。調査に当たり北側の畑地に1～4トレンチを、南側の店舗跡地に5～8トレンチを設定した。北側の畑地について、全域で耕作土の下に非常に希薄な遺物包含層を確認し、その下で地山を確認した。1～3トレンチでは遺構及び遺構に伴う遺物は確認されなかった。4トレンチで東西方向に延伸する溝（断面面図）を検出し、埋土中より弥生土器片、石器片を確認した。

南側の店舗跡地は、全域で造成及び舗装がなされており、今後の開発計画に沿って舗装を切断し調査を実施した。なお、7トレンチでは埋設電気線を確認したため掘削を中止した。8トレンチで地山を基盤層とし、南側に降る暗褐色シルト層を埋土とする遺構の可能性がある堆積状況を確認したが、遺物は出土せず時期不明である。これ以外には遺構・遺物は確認されなかった。

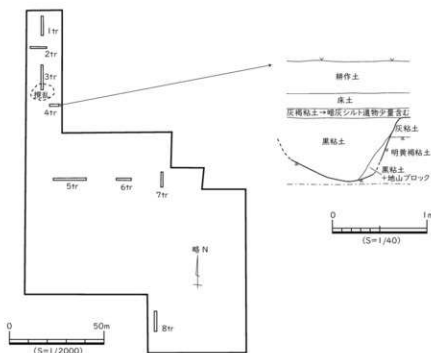
対象地の北側と南側では、既存店舗による影響の有無を差し引いても、堆積状況が大きく異なる点には注目できる。北側では地山面が比較的高い位置で検出され、一部に遺構も形成されている一方、南側では地山面が低く、湧水もあり埋土は細粒で締まりの弱いシルト層である。旧地形として、北側が高乾な高地、南側が低湿地に相当するものと考えられる。調査地周辺の旧地形として、南北方向の埋没旧流路・低地の存在が示唆されており（香川県教委1997『空港跡地遺跡Ⅱ』）、南側の調査成果はこれと整合的である。

### 6 まとめ

以上をまとめると、北側の畑地の一部で埋蔵文化財の包蔵状況を確認したほかは、埋蔵文化財包蔵地とは認められない。名称は「空港跡地遺跡」とし、今後の開発に当たっては適切な保護措置が必要である。（高上）



第62図 調査地位置図 (1/5,000)



第63図 トレンチ配置図・断面図 (1/2,000・1/40)

## 36. 佐料遺跡

- 1 所在地 高松市鬼無可佐料
- 2 調査期間 令和5年11月9日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 包蔵状況の確認
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「佐料遺跡」内に当たる。事業者からの依頼を受けて確認調査を実施した。調査に当たり、既存の果樹を避けて4本のトレンチを設定した。

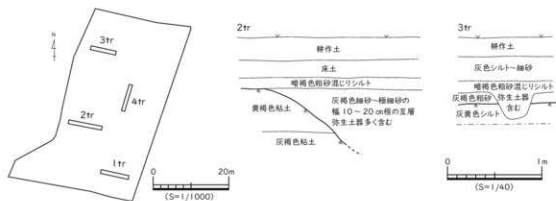
対象地の南側では、大型の遺構（旧河道か）が確認され、埋土中から弥生土器片が確認された。特に2トレンチからは比較的多量の土器片が出土している。一方北側では弥生土器片を包含した暗褐色粗砂混じりシルトが広く分布しており、この遺物包含層が遺構埋土となる溝と、遺構の基盤層として形成されたピットを確認した。この層序の理解から、遺構面が2面存在することが確認できるが、ピットは埋土中より遺物が出土しておらず、時期が不明である。近世以後の可能性も否定できない。南側・北側ともに遺構面までの深さは0.55～0.6mである。

### 6 まとめ

以上をまとめると、対象地の全域で現地表面下0.55～0.6mの深度で遺構面が存在することを確認した。遺構密度は旧河道を含むと比較的密であるといえる。今後開発に際しては適切な保護措置が必要である。（高上）



第64図 調査地位圏図 (1/5,000)



第65図 トレンチ配置図・断面図 (1/1,000・1/40)



## 37. 新名氏屋敷跡

- 1 所在地 高松市国分寺町新名
- 2 調査期間 令和5年11月14日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 宅地造成工事
- 5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「新名氏屋敷跡」に該当する。本書5で報告した際に既存建物等で調査できなかった範囲の追加調査である。今回の調査地点は中央地区と呼称し、トレンチ名は前回調査から連番で呼称する。9トレンチでは大型の溝跡(SD1)を確認し、埋土中最下層より中世の土師器・須恵器が出土した。SD1は最大幅で約4m、深度1.3m以上を測る。なお、明らかな溝埋土の外側にも水平堆積せし傾斜を持って二次的に堆積した可能性の高い層が3m程外側まで確認されており、溝が掘り直されている可能性がある。埋土は地山起源の土砂がブロック状に厚く堆積しており、短期間で人為的に埋め戻された可能性が想定できる。規模の大きな溝であり、当地が新名氏屋敷として理解されていることを踏まえると、屋敷の区画溝に相当する可能性がある。

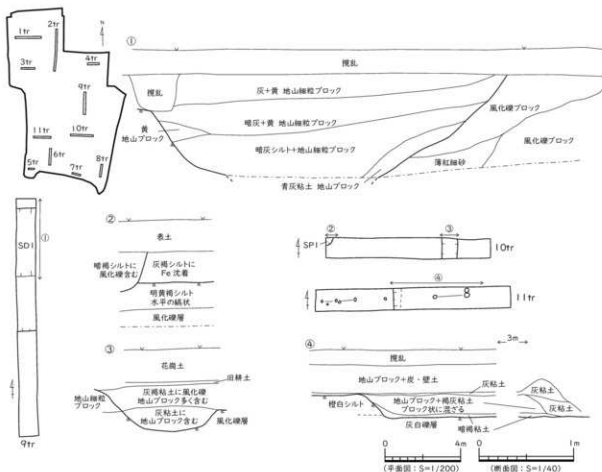
10・11トレンチではピット、溝を確認したが、遺物が出土したのはSP1のみで中世と考えられる土師器が出土している。一部のピットは等間隔に並び建物を構成する柱穴であった可能性が高い。なお、11トレンチでは中位で遺構面に人為的な段が付けられた状況を確認した。さらに④断面の東側では土手状の堆積を確認した。この機能は特定が難しいが、土地の区画、あるいは造成の際の土留め等の可能性が推測できる。

## 6 まとめ

対象地は埋蔵文化財包蔵地である。今後の開発に当たっては適切な保護措置が必要である。(高上)



第66図 調査地位置図 (1/5,000)



第67図 トレンチ配置図・平面図・断面図 (1/2,000・1/200・1/40)

## 38. 木太町下西原地区

- 1 所在地 高松市木太町
- 2 調査期間 令和5年11月27～28日
- 3 調査担当者 高上 拓
- 4 調査の原因 施設建設工事
- 5 調査の概要

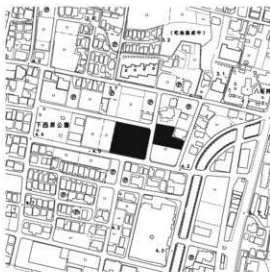
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業者からの依頼を受け、試掘調査を実施した。対象地は道路を挟んで東西に分断されており、西半に4本、東半に3本の調査区を設定した。西半では、地山である明黄褐色粘土層が北西隅に向かって高くなっており、それ以外は低地性の堆積（シルトによる互層が厚く堆積し、湧水を伴う）を呈している。一部では旧河道を確認しており、埋土中からは少量の弥生土器片が出土した。埋土は黒色粘土を主体としており、弥生時代以降に埋没した旧河道である。北西隅で時期不明ピットが基礎確認された以外には明確な遺構は確認されず、旧河道中の遺物包含量も極めて希薄である。

東半では、地山と考えられる明黄褐色粘土層が東側に向かって高く、西側で低地性の堆積を確認した。西側の低地は段状に低くなっており、耕作地の整形等のための人為的な造作の可能性も考えられる。ただし、遺物を伴わず時期不明である。これ以外に遺構・遺物は確認されなかった。

以上をまとめると、西半で確認したのは自然地形である旧河道とそれに伴う少量の遺物であり、東半では遺構・遺物が確認されなかった。周辺の地形をやや巨視的にみると、対象地の東側約100mの位置に南北に流下する宮川が所在する。今回の対象地の過半は埋没旧河道あるいはその氾濫によって徐々に埋没した低地に相当する。東半で確認した東側に向かって高くなる地山は、自然堤防の可能性が推測でき、その場合自然堤防の後背湿地に相当する可能性も考えられる。

## 6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない（高上）。



第68図 調査地位圏図 (1/5,000)



写真6 旧河道断面



写真7 旧河道検出状況

## 第2章 重要遺跡確認調査(令和4年12月~令和5年11月)

### 39. 史跡讃岐国分尼寺跡

- 1 所在地 高松市国分寺町新居
- 2 調査期間 令和4年11月2日~令和5年3月22日
- 3 調査担当者 香川 将慶・森原 奈々
- 4 調査の原因 寺域等確認調査
- 5 調査の概要

#### a 経緯・経過

寺域東側の区画施設の構造等を解明するために2カ所の調査区を設定した。

#### b 調査成果

##### 【基本層序】

第1調査区は表土、床土以下に近世から近代にかけての堆積層(第3層)、近世の堆積層(第5層)が堆積する。第6・7層が古代の整地層と推測される堆積層で、第8層が地山である。

第2調査区は西から東に向かって傾斜している。表土、床土以下に古代から中世の層(第6・8層)が堆積する。第22・23層が地山でこの上面で古代の遺構が検出できる。

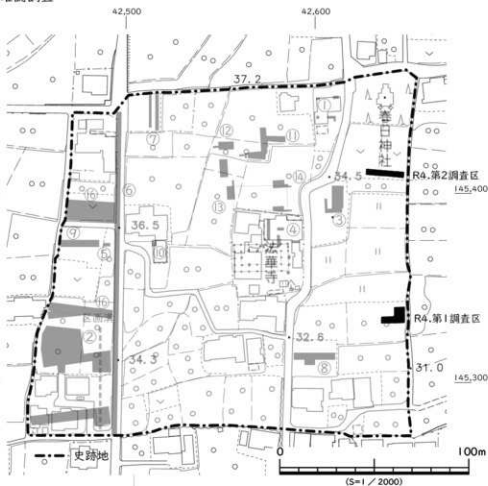
##### 【遺構及び遺物】

今回の調査では両調査区合わせて築地堀跡?1条、基壇建物跡1棟、溝7条、土坑1基、ピット7基、性格不明遺構1基を確認した。

区画施設と考えられる遺構は、第2調査区のSA01とSD01・02である。SA01とSD01・02ともに調査区東側で確認し、寺域西側で実施した第16次調査で検出した区画溝を中軸線で折り返した位置で検出している。検出した場所は調査区西側と比較して地山が低い位置であり、築地堀の基壇(SA01)を積み上げて構築したと考えられる。なお、第20・21層は地山由来の礫を含んで構築された整地層である。その両側にSD01・SD02を検出したことから築地堀に伴う雨落ち溝と推測される。また、第18層以下でSP07を確認したが、深度が浅く削平または誤認の可能性もあり、築地堀に伴うものかは不明である。また、第18層から創建期瓦等の遺物が入り、当初からの築地堀の構築土が創建後に改修に伴う堆積層であるかは今後の調査で明らかにする必要がある。SD01やSD02からは創建期の軒丸瓦SB01をはじめ奈良時代後半から平安時代の瓦類や土器類が出土している。

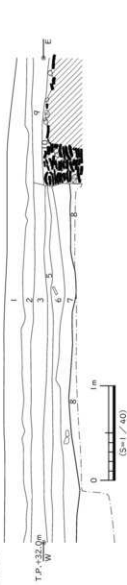
建物に関係する遺構としては、第1調査区で近世の基壇建物跡(SB01)を検出した。SB01の基底部分は大量の瓦と土器類を丁寧に敷き詰め構築している。その上面に薄い粘土層(第10層)で覆い、第9層を盛り上げて基壇を構築する。時期は切り合い関係や基壇内から陶磁器が出土したことから近世と考えられる。現金堂の凡そ東側に位置しており、近世に現在の法華寺が再興していることからそれとの関連性が想定される。

SB01の保存状況が良好であり、現段階で遺構を掘削して下層の状況を確認することは不適当と考えたため、

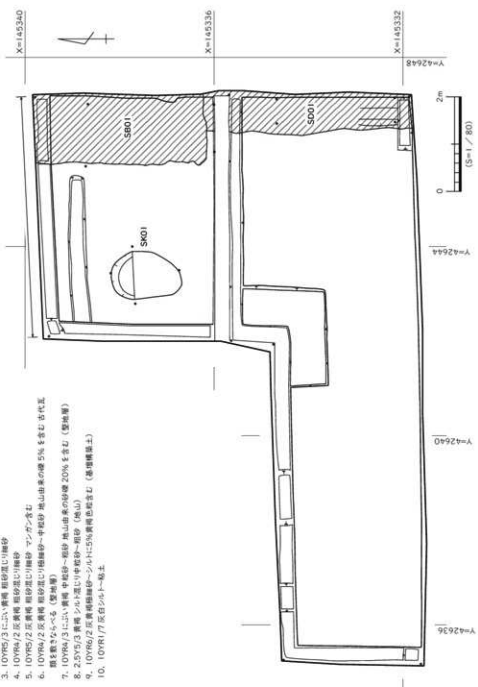


第69図 調査地位置図(1/2,000)

<第1調査区>



1. 表土
2. 10YR6/4に濃い黄砂 細砂
3. 10YR5/3に濃い黄砂 細砂混じり粗砂
4. 10YR6/2に黄砂 粗砂混じり粗砂
5. 10YR5/2に黄砂 粗砂混じり粗砂 マンガンを含む
6. 10YR6/2に黄砂 粗砂混じり粗砂 火山由来の礫5%を含む 古代瓦 跡も散らかる(壁)
7. 10YR6/3に濃い黄砂 中粒砂-粗砂 火山由来の砂礫20%を含む (壁)
8. 2.5Y5/3に黄砂 シルト混じり中粒砂-粗砂 (火山)
9. 10YR6/2に黄砂 粗砂混じり粗砂 シルトに5%黄砂混じりを含む (遺構構築土)
10. 10YR1/7に白シルト-粘土



第70図 トレンチ平面図・断面図 (1/80・1/40)

第5層以下を平面的に掘削せず、サブトレンチを設定して断面観察した結果、古代に位置付けられる整地層を確認した。古代に位置付けられる整地層は第6・7層の範囲である。第7層は地山由来の礫を含んで構築されている。検出した位置は第2調査区で検出した築地塼(SAO1)と検出軸は同じである。しかし、面的に状況を把握できていないことや検出幅が異なる点が課題である。

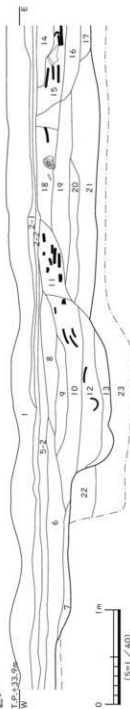
第2調査区ではピット等を確認し、出土遺物等から古代に位置付けられる。狭小な調査であるため確定できないが、これらの遺構は全国で実施された国分寺の調査をもとにすると運営施設に関する遺構の可能性も考えられる。

6 まとめ

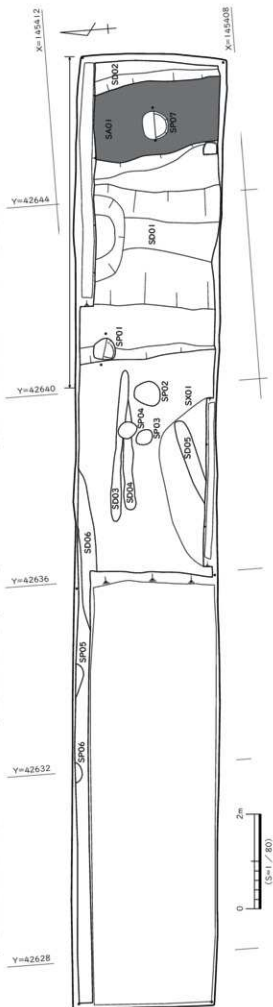
今回の調査で寺域東側の区画施設が築地塼の可能性があることが明らかになった。しかし、検出した幅が狭小であることや第1調査区で明瞭に確認できていないことから、東側築地塼の延伸状況について引き続き調査する必要がある。

さらに、西側は溝で東側は築地塼の可能性があることから西と東で区画施設が異なっている状況である。この状況が東西の区画施設として適当であるか検証の必要がある。(香川)

<第2調査区>



- |                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 1. 集土                           | 16. 10YR3/4暗褐色 中粒砂混じり粗砂 (SD02 埋土)                |
| 2. 田畔作土                         | 17. 10YR3/2黄褐色 粗砂混じり粗砂 (SD02 埋土)                 |
| 3. 10YR6/4暗 粗砂 黄褐色を1%含む         | 18. 10YR6/3に濃い黄褐色 粗砂混じり粗砂 (SD02 埋土)              |
| 4. 10YR6/3に濃い黄褐色 中粒砂混じり粗砂       | 19. 10YR3/4暗褐色 粗砂混じり粗砂 黄褐色を10%含む (築地層?)          |
| 5-1. 10YR6/3に濃い黄褐色 粗砂混じり粗砂      | 20. 10YR3/4暗褐色 粗砂 黒山粘土の層 10%含む (築地層?)            |
| 5-2. 10YR6/3に濃い黄褐色 粗砂混じり粗砂      | 21. 10YR3/4暗褐色 粗砂-中粒砂 黒山粘土の層 10%に黄褐色を5%含む (築地層?) |
| 6. 10YR3/3暗褐色 粗砂-中粒砂 ムンゲンを含む    | 22. 2.5Y4/2暗灰色 中粒砂-粗砂 5~50mmの層を15%含む (埋土)        |
| 7. 10YR3/4暗褐色 粗砂混じり粗砂 (SD01 埋土) | 23. 2.5Y4/1黄灰色 シルト混じり粗砂-中粒砂 5~50mmの層を20%含む (埋土)  |



第71図 トレンチ平面図・断面図 (1/80・1/40)

ふりがな	たかまつしないいせきはつつちょうさがいほう								
書名	高松市内遺跡発掘調査概報								
副書名	令和5年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書								
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告								
シリーズ番号	第248集								
編著者名	高上 拓・香川 将慶・梶原 慎司・品川 愛・森原 奈々・磯崎 福子(編)								
編集機関	高松市教育委員会								
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 Tel.087(839)2660								
発行年月日	令和6年3月31日								
番号	ふりがな 所収遺跡名	調査地	市町村	遺跡 番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査後の措置
1	いいのにしちごうつか 飯田西15号塚	飯田町	37201	10107	34° 19' 20"	133° 59' 57"	R4.12.21	20 / 36.9 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認 位置修正
2	さぬきこくぶんじあと 讃岐国分寺跡	国分寺町 国分	37201	70001	34° 18' 14"	133° 56' 36"	R5.1.11 ~1.20	80 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認
3	はぎのまえいっばんざいせき 萩前・一本木遺跡	仏生山町	37201	10971	34° 16' 59"	134° 02' 31"	R5.2.3 ~2.14	119 / 183.4 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認
4	みたにちょうようちひがしちく 三谷町横内東地区	三谷町	37201	10967	34° 16' 42"	134° 04' 09"	R5.1.24 ~2.17	80・30 / 114.5 m <sup>2</sup>	包蔵地確認 「横内東遺跡」 追加登録
5	しんみょうしやしきあと 新名氏屋敷跡	国分寺町 新名	37201	70144	34° 17' 14"	133° 57' 26"	R5.2.28 ~3.1	50 / 114.5 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認
6	かみはやしちようほんむらちく 上林町本村地区	上林町	37201		34° 17' 26"	134° 03' 58"	R5.3.28	40 / 100.0 m <sup>2</sup>	包蔵地確認されず
7	はやしちようむねたかちく 林町宗高地区	林町	37201	10695	34° 17' 55"	134° 04' 11"	R5.4.3 ~4.4	80 / 275.2 m <sup>2</sup>	包蔵地確認 「林宗高遺跡」 追加登録
8	じょうりあと 糸里跡	香南町 由佐	37201	50017	34° 14' 42"	134° 00' 58"	R5.4.5	7 / 66.7 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認
9	たひかみまちひらつかちく 多肥上町平塚地区	多肥上町	37201	10958	34° 17' 41"	134° 02' 58"	R5.4.10	70 / 176.5 m <sup>2</sup>	包蔵地確認 「多肥平塚遺跡」 追加登録
10	じょうりあと 糸里跡	香南町 由佐	37201	50017	34° 14' 18"	134° 01' 15"	R5.4.11	50 / 93.5 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認
11	にしやまさきちようほんごうちく 西山崎町本郷地区	西山崎町	37201	10869	34° 17' 07"	133° 59' 39"	R5.4.13 ~4.14	100 / 397.1 m <sup>2</sup>	包蔵地確認 「本郷遺跡」 追加登録
12	おおたしちもまちかえりまちちく 太田下町畦股地区	太田下町	37201		34° 18' 32"	134° 03' 02"	R5.4.19	13 / 32.9 m <sup>2</sup>	包蔵地確認されず
13	みまやなんぶじごうつか 御殿南部1号塚	御殿町	37201	10183	34° 18' 22"	133° 59' 12"	R5.4.21 ~4.24	10 / 20 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認
14	かみはやしちようほんむらちく 上林町本村地区	上林町	37201		34° 17' 30"	134° 03' 57"	R5.4.28	85 / 170.0 m <sup>2</sup>	包蔵地確認されず
15	じょうりあと 糸里跡	香南町 吉光	37201	50017	34° 15' 11"	134° 00' 51"	R5.5.12	15 / 35.8 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認
16	えんざちようみちしたちく 円座町道下地区	円座町	37201		34° 17' 28"	134° 00' 29"	R5.5.25	40 / 121.8 m <sup>2</sup>	包蔵地確認されず
17	たひかみまちきたほらちく 多肥上町北原地区	多肥上町	37201		34° 17' 40"	134° 02' 43"	R5.6.15 ~6.16	38 / 59.0 m <sup>2</sup>	包蔵地確認されず
18	じょうりあと 糸里跡	香南町 横井	37201	50017	34° 14' 51"	134° 00' 41"	R5.6.19	30 / 65.8 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認

番号	ふりがな 所収遺跡名	調査地	市町村	遺跡 番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査後の措置
19	こうざいみなみまちにしろちちく 香西南町西打地区	香西南町	37201	10822	34° 20' 18"	133° 59' 59"	R5.7.24 ～7.26	90 / 2760 m <sup>2</sup>	包蔵地確認 「香西南西打遺跡」追加登録
20	みたにちようきたはらちちく 三谷町北原地区	三谷町	37201	11019	34° 17' 05"	134° 03' 45"	R5.7.27 ～7.28	92 / 2144 m <sup>2</sup>	包蔵地確認 「三谷北原遺跡」 新規登録
21	じようりあと 柔里跡	香南町 横井	37201	50017	34° 14' 38"	134° 00' 48"	R5.7.31 ～8.3	602 / 7998 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認されず
22	きゆうなんかいどうあと 旧南海道跡	中間町	37201	10802	34° 17' 31"	133° 59' 43"	R5.8.4	20 / 750 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認されず
23	たひかみまほひぐらしちく 多肥上町日暮地区	多肥上町	37201	10806	34° 17' 46"	134° 03' 35"	R5.8.16	105 / 981 m <sup>2</sup>	包蔵地確認 「日暮・松林遺跡」 追加登録
24	はやしちようおねたかちく 林町宗高地区	林町	37201		34° 17' 54"	134° 04' 08"	R5.9.12	15 / 684 m <sup>2</sup>	包蔵地確認されず
25	じようりあと 柔里跡	香南町 横井	37201	50017	34° 14' 35"	134° 00' 38"	R5.9.13	33 / 334 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認されず
26	ひさもとこふん 久本古墳	新田町	37201	10537	34° 18' 54"	134° 06' 21"	R5.9.25	15 / 1111 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認
27	みたにちようけしよかみちちく 三谷町下所上地区	三谷町	37201	11020	34° 16' 49"	134° 04' 12"	R5.9.26 ～10.2	419 / 9900 m <sup>2</sup>	包蔵地確認 「三谷下所上遺跡」 新規登録
28	ちくじようちようじようちちく 六条町上所地区	六条町	37201		34° 18' 13"	134° 04' 53"	R5.10.3	60 / 1824 m <sup>2</sup>	包蔵地確認されず
29	ぶつしんざんちんやなちちく 仏生山町中禪子地区	仏生山町	37201	11021	34° 16' 35"	134° 02' 19"	R5.10.4 ～10.6	39 / 2370 m <sup>2</sup>	包蔵地確認 「中禪子遺跡」 新規登録
30	たひかみまきたはらちちく 多肥上町北原地区	多肥上町	37201		34° 17' 41"	134° 02' 42"	R5.10.4 ～10.11	62 / 520 m <sup>2</sup>	包蔵地確認されず
31	えんざちようかみえんざちちく 円座町上円座地区	円座町	37201		34° 16' 49"	134° 00' 39"	R5.10.12	40 / 1457 m <sup>2</sup>	包蔵地確認されず
32	はやしちようおねたかちちく 林町宗高地区	林町	37201	10695	34° 18' 03"	134° 04' 20"	R5.10.24	60 / 2072 m <sup>2</sup>	包蔵地確認 「林宗高遺跡」 追加登録
33	たむらちようおたけちちく 田村町大竹地区	田村町	37201	11023	34° 18' 24"	134° 01' 59"	R5.10.26	60 / 1600 m <sup>2</sup>	包蔵地確認 「大竹遺跡」 新規登録
34	いけのうちじようあと・こうなんちようじちちく 池内城跡・香南町城地区	香南町 池内	37201	50018	34° 14' 34"	134° 00' 08"	R5.4.17～ 10.31	120 / 8657 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認・ 包蔵地確認されず
35	はやしちようなかばやしちちく 林町中林地区	林町	37201	10629	34° 17' 33"	134° 04' 25"	R5.11.1 ～11.2	30 / 10606 m <sup>2</sup>	包蔵地確認 「空港跡地遺跡」 追加登録
36	さりういせき 佐料遺跡	鬼無町 佐料	37201	10052	34° 20' 04"	133° 59' 37"	R5.11.9	20 / 1275 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認
37	しんみょうしやしきあと 新名氏屋敷跡	国分寺町 新名	37201	70144	34° 17' 15"	133° 57' 25"	R5.11.14	30 / 10608 m <sup>2</sup>	包蔵状況確認
38	きたちようしちしほらちちく 木太町下西原地区	木太町	37201		34° 19' 03"	134° 04' 12"	R5.11.27 ～11.28	100 / 3780 m <sup>2</sup>	包蔵地確認されず
39	しせきさぬきこくふんにじあと 史跡讃岐国分尼寺跡	国分寺町 新居	37201	70050	34° 18' 37"	133° 57' 48"	R4.11.2 ～R5.3.22	44 m <sup>2</sup>	寺域等確認

番号	ふりがな 所収遺跡名	種別	時代	遺構	遺物
1	いいでにいちごうつか 飯田西15号塚	塚	中世・ 近世	塚、塚の裾部	須恵器・土師器片 ビニール袋1袋
2	さぬきこくぶんじま 讃岐国分寺跡	社寺跡	古代～ 中世	井戸?、土坑、ピット、性 格不明遺構	石器・土師質土器・須恵器・黒色土器・ 陶磁器片・古代瓦 コンテナ 8箱
3	ほだのまえいへびんざいせき 萩前・一本木遺跡	集落跡	古墳～ 古代	竪穴建物か	-
4	みたにちようよこうちひがしちく 三谷町横内東地区	集落跡	古代～ 中世	溝	須恵器・土師器片・鉄器? ビニール袋1・2袋
5	しんみょうしやしきあと 新名氏屋敷跡	城館跡	中世・ 近世	溝、ピット、土坑	須恵器・土師器・陶磁器片・瓦 ビニール袋5袋
6	かみはやしちようほんむらちく 上林町本村地区	-	-	-	須恵器・土師器片 ビニール袋2袋
7	はやしちようむねたから 林町赤高地区	集落跡	古墳・ 古代	溝、ピット、土坑、旧河 道	須恵器・土師器片 ビニール袋1袋
8	じょうりあと 条里跡	条里跡	不明	溝	-
9	たひかみまちひらつから 多肥上町平塚地区	集落跡	古代	溝か旧河道、溝か土坑	須恵器・土師器片 ビニール袋1袋
10	じょうりあと 条里跡	集落跡	中世以 前	溝、ピット、旧河道	土師器片 ビニール袋1袋
11	にしやまさきちようほんごうちく 西山崎町本郷地区	集落跡	古代～ 中世	溝	須恵器・土師器片 ビニール袋1袋
12	おたしたもまちかえるまたちく 太田下町蛙股地区	-	-	-	弥生土器片か ビニール袋1袋
13	みまやなん、ひごうつか 御殿南部1号塚	その他 の墓	中世	塚、溝	土師器・陶磁器片 ビニール袋1袋
14	かみはやしちようほんむらちく 上林町本村地区	-	-	-	-
15	じょうりあと 条里跡	条里跡	不明	溝、ピット	-
16	まんざちようみちしたちく 円座町道下地区	-	-	-	-
17	たひかみまちきたばらちく 多肥上町北原地区	-	-	-	-
18	じょうりあと 条里跡	条里跡	古代～ 中世	溝、ピット	須恵器・土師器片 ビニール袋3袋
19	こうがいみなみまちにしちちく 香西南町西打地区	集落跡	古代～ 中世	溝	須恵器・土師器片 ビニール袋3袋
20	みたにちようきたばらちく 三谷町北原地区	集落跡	弥生～ 古墳	溝、土坑	須恵器・弥生土器か土師器片・瓦 ビニール袋5袋
21	じょうりあと 条里跡	-	不明	溝、土坑、ピット	須恵器・土師器片・近代瓦 ビニール袋1袋
22	きゅうなんかいどうあと 旧南海道跡	-	不明	土坑、流路	-
23	たひかみまちひぐらちちく 多肥上町日暮地区	集落跡	弥生	土坑、溝、ピット	弥生土器・陶磁器片 ビニール袋3袋
24	はやしちようむねたから 林町赤高地区	-	-	-	-
25	じょうりあと 条里跡	-	近現代	溝、ピット	須恵器・陶器・土器片・ガラス瓶 ビニール袋1袋
26	ひきもとこぶん 久本古墳	古墳	古墳	周溝、周堤?	須恵器・土師器片(中世) ビニール袋1袋
27	みたにちようげしよかみちく 三谷町下所上地区	集落跡	中世以 前	溝、ピット	弥生土器・石器・須恵器・陶磁器片 ビニール袋7袋



番号	ふりがな 所収遺跡名	種別	時代	遺構	遺物
28	ろくじょうちようじょうしよちく 六条町上所地区	-	-	-	-
29	ぶっしようごんちようなかしよちく 仏生山町中陣子地区	集落跡	古墳	竪穴建物?、土坑、ピット	須恵器・土師器片・瓦・石器 ビニール袋 6袋
30	たひかみまちきたはらちく 多肥上町北原地区	-	不明 現代	土坑、ピット	土器片 ビニール袋 1袋
31	えんざちようかみえんざちく 円座町上円座地区	-	-	-	-
32	はやしちようむねたかちく 林町宗高地区	集落跡	弥生～ 古墳	竪穴建物、溝、ピット	土師器・須恵器片 ビニール袋 5袋
33	たむらちようおたけちく 田村町大竹地区	集落跡	弥生	溝、土坑、ピット、包含 層	弥生土器片・石器 コンテナ 1箱
34	いけのうちじようあせこうなんちようじょうちく 池内城跡・香南町城地区	城館跡	中世	溝、ピット、堀?	土師器片 ビニール袋 3袋
35	はやしちようなかばやしちく 林町中林地区	集落跡	弥生	溝	弥生土器片・石器 ビニール袋 1袋
36	さりよういせき 佐料遺跡	集落跡	弥生	溝、ピット、旧河道?	弥生土器片 ビニール袋 3袋
37	しんみょうしやしきあと 新名氏屋敷跡	城館跡	中世～ 近世	溝、ピット	土師器・須恵器・陶器片 ビニール袋 3袋
38	きたちようしむにしほらちく 木太町下西原地区	-	弥生	旧河道	弥生土器片 ビニール袋 3袋
39	しせききぬきこくふんにじあと 史跡讃岐国分尼寺跡	社寺跡	古代～ 近世	築地堀?、溝、近世基壇 建物跡	瓦類・須恵器・土師器・土師質土器・ 陶器片 コンテナ 38箱

高松市埋蔵文化財調査報告第248集

## 高松市内遺跡発掘調査概報

— 令和5年度国庫補助事業 —

令和6年3月31日 発行

編集 / 発行 高松市教育委員会

高松市番町一丁目8番15号

印刷 株式会社 美巧社



